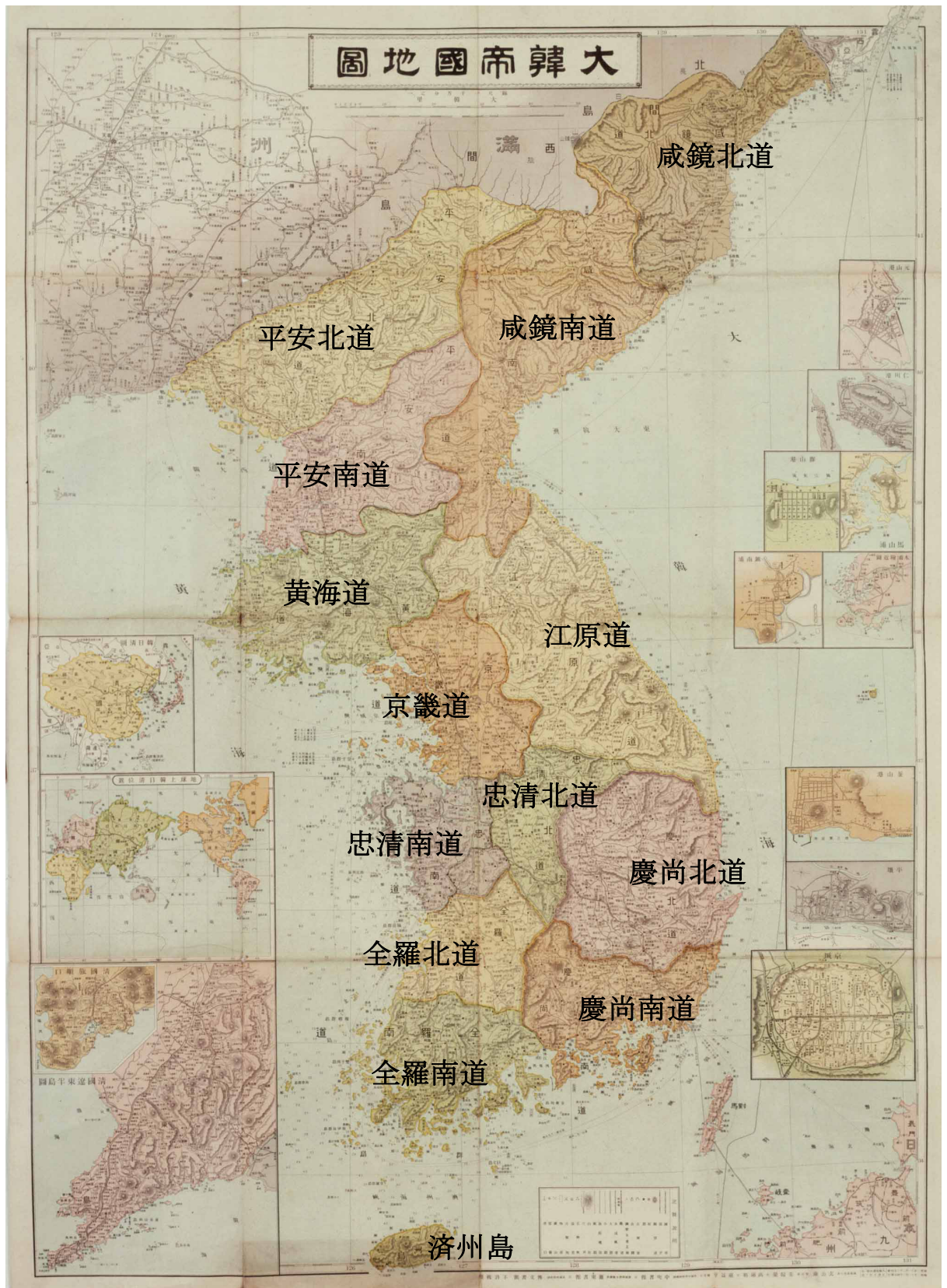


〔 資 料 編 〕

目次

朝鮮全図（1908 年）	1
留学生名簿	2
＜表 1＞ 東京美術学校	2
＜表 2＞ 文化学院美術科	17
＜表 3＞ 大阪美術学校	24
＜表 4＞ 女子美術学校	29
＜表 5＞ 帝国美術学校	51
＜表 6＞ 太平洋美術学校	70
＜表 7＞ 日本大学美術科	76
＜表 8＞ 日本美術学校	78
＜表 9＞ 緑陰社画学校	81
＜表 10＞ 京都市立絵画専門学校	82

朝鮮全図（1908 年） 玄公廉『大韓帝国地図』（1908 年、韓国宝物第 853 号、尹炯斗蔵）に筆者加筆。



留学生名簿

<表 1> 東京美術学校

*以下の情報は、主に吉田千鶴子『近代東アジア美術留学生の研究—東京美術学校留学生資料—』（ゆまに書房、2009 年）から要約・抜粋しており、韓国の雑誌や図録からの情報を加えている。

	名前	生没年 出生地	入学卒業		活動情報	情報出典 (吉田千鶴子著書以外の出典)
1	朴鎮榮 박진영	?	1908 年入学			
2	高義東 고희동	1886～ 1965 京畿道 京城	1909 年入学 1914 年卒業	西洋画科撰 科	1918 年、韓国初の実業家団体である書画協会を結成。1920 年代半ば頃から伝統絵画へ転向。 朝鮮美術建設本部の中央委員長。右翼系の朝鮮美術協会の会長。 1949 年に創立した大韓民国美術展覧会（以下、「国展」と約す）の運営に主導的な役割をする。 1953 年に大韓美術協会会長となる。国展の東洋画部の審査委員長。1960 年～1961 年、参議員。	
3	金觀鎬 김관호	1891～ 1959 平南 平壤	1911 年入学 1916 年卒業	西洋画科撰 科	卒業制作の《夕暮れ》で首席卒業。1916 年に帰郷し、朝鮮人としては初の西洋画の個展を開く。 1925 年、平壤で朔星絵画研究所を創立。 戦後、北朝鮮の美術界の指導者になる。1946 年、平壤市美術同盟の常務委員、その後、北朝鮮 芸術総連盟美術同盟の中央委員・常務委員に就く。	
4	金瓚永 김찬영	1893～ 1960 平壤	1912 年入学 1917 年卒業	西洋画科撰 科	1917 年に帰国し、暫く批評活動をする（トルストイの芸術論・民衆芸術論を紹介）。 1925 年、朔星絵画研究所で西洋画を指導。	
5	金鎮奭 김진석	1891～ 1917 京城	1914 年入学	彫刻科 撰科	1917 年の在学中に病死。	
6	李鍾禹 이종우	1899～ 1982	1918 年入学 1923 年卒業	西洋画科撰 科	帰国後、暫く高麗美術院研究所でデッサンを教える。 1925 年、フランスに留学し、サロン・ドトンヌで入選。帰国後、朔星絵画研究所で指導。	

		黄海道 鳳山郡			<p>1934 年、張勃、具本雄、金容俊などと牧一会を組織。</p> <p>戦後、朝鮮美術建設本部の西洋画部委員や朝鮮美術協会の副会長を経て、大韓美術協会の副会長を歴任。</p> <p>1949 年から国展の審査委員。弘益大学校美術大学の教授、学長を歴任。</p> <p>1961 年、芸術院賞受賞。1962 年、文化勲章受賞。</p>	
7	李漢福 이한복	1898～ 1940 京畿道	1918 年入学 1923 年卒業	日本画科撰 科	<p>朝鮮美展の東洋画部と書道部で活躍し、数回にわたって受賞。</p> <p>正木直彦の京城訪問の時には、古美術見学の案内役を務める（『十三松堂日記』参照）。</p>	
8	金昌燮 김창섭	1888～ 京城	1920 年入学 1925 年卒業	西洋画科撰 科	京城中央高等普通学校に就職。	
9	張勃 장발	1901～ 2001 京畿道 仁川… ②	1920 年入学 1922 年中退	西洋画科撰 科	<p>1916 年、 徽文高普 ・五星高普・中央高普が開催した連合学生美術際で受賞…①</p> <p>1919 年、在学中に 高義東の「高麗画会」で洋画を学ぶ。…①</p> <p>1920 年 9 月に東京美術学校に入学するが、1922 年 9 月 6 日、アメリカ留学のために退学。同年の 11 月に渡米し、ニューヨークの国立デザイン学校(National Academy of Design)で修学。1923 年 9 月にコロンビア大学校師範大学の实用美術学部で、美術実技や理論科目を履修し、1925 年 6 月まで在学する。…②</p> <p>1926～1943 年、徽文高等普通学校、徽新高等普通学校の教員として働き、1943 年には啓星女子高等学校の校長として就任する。…③</p> <p>1934 年、牧日会の創立展に参加。</p> <p>1945 ～1946 年、米軍政庁の京城府学務局で働いてから、ソウル大学校美術科の学長に就任。</p> <p>1949 年、ソウル特別市文化賞受賞。1949～1960 年、国展の審査委員。</p> <p>1950～1952 年、アメリカのミネソタ大学に交換教授。…②</p> <p>1955 年、韓国美術家協会会長、1960 年、芸術院の副会長。</p> <p>1961 年、大韓民国特別全権大使としてイタリアへ行くためにソウル大から退職するが、軍事クーデタ勃発。1964 年にアメリカへ移住し、従性居住する。…②</p>	<p>①ジョ・ユンキョン (조윤경)「張勃の生涯と 作品活動に関する研究：カトリッ ク聖画を中心に (장발의 생애와 작품활동에 관한 연구: 가톨릭 성화를 중심으로)」、ソウル 大学校美術大学美術理論専攻 修士学位論文、2000 年。</p> <p>②鄭榮沐「張勃評伝、1946－1953」 『造形 アーカイブ』第 2 号、ソ ウル大学校造形研究所、2010 年。</p> <p>③韓国歴代人物綜合情報システ ム：www. people. aks. ac. kr</p>

					1976 年 5 月、新世界美術館で個展。1984 年、大韓民国文化勳章受章。…①	
10	孔鎭衡 공진형	1900～ 1988 京畿道 開城郡	1920 年入学 1925 年卒業	西洋画科撰 科	国展の推薦作家。	
11	金復鎭 김복진	1901～ 1940 忠北 永同郡	1920 年入学 1925 年卒業	彫刻科 木彫部 撰科	<p>帰国後、高麗美術院研究所で彫刻を教える。韓国近代彫刻の先駆者。</p> <p>1923 年、土月美術研究会を創立。…①</p> <p>1936 年、朝鮮美術院の創立メンバーになり、彫刻指導を担当する。</p> <p>彼の弟子としては、第 2 世代彫刻家である 文錫五、李國銓、金景承、尹孝重などがいる。…②</p> <p>美術・文芸評論家としても活躍。社会主義運動にも参加しており、1927 年、プロレタリア芸術同盟の中央委員、1928 年の第 3 次朝鮮公産党のの中央委員などに勉めていた。</p> <p>社会主義運動に関連して逮捕され、1928 年から 6 年間収監される。</p> <p>1935 年から暫くの間、京城中央日報の学芸部長に勤めるが、39 歳の若さで夭折した。</p>	<p>①최열 『韓国近代美術의 歴史 韓国美術史事典 1800-1945』 ソウル：悦話堂、2006 年、167 頁。</p> <p>②金伊順 「韓国の近現代彫刻の流れ：人物像と抽象彫刻を中心に(한국 근현대조각의 흐름: 인물상과 추상조각을 중심으로)」 『韓国近現代美術の巨匠展』 63 スカーイアート美術館(63 스카아트미술관)、2010 年、10～19 頁。</p>
12	張翼 장익	1900～ 平北 竜川郡	1921 年入学 1926 年卒業	西洋画科撰 科	1930 年 6 月に京城府협성実業学校に就職している。	
13	李昞圭 이병규	1901～ 1974 京畿道 安城郡	1921 年入学 1926 年卒業	西洋画科撰 科	<p>1946 年、養正中学校教頭になり、財団理事長も歴任し、30 年間教育を行う。</p> <p>1949～1971 年、国展の審査委員。1971 年、大韓民国文化芸術賞受賞。</p>	
14	李濟昶 이제창	1896～ 1954 京城	1921 年入学 1926 年卒業	西洋画科撰 科	帰国後、1926 年 10 月に培材高等普通学校に就職している。 後に中東高等美術教師。	

15	金貞塚 김정채	1897～ 平北 竜川郡	1921 年入学 1927 年卒業	西洋画科撰 科		
16	郭胤模 곽윤모	1902～ 平北 鎮南浦	1921 年入学	彫刻科塑造 部撰科	1922 年 6 月 5 日に授業料滞納で除名。	
17	都相鳳 도상봉	1902～ 1977 咸南 洪原郡	1922 年入学 1927 年卒業	西洋画科撰 科	号は、陶泉。1916 年、普成高等普通学校に入学し、高義東に油絵を学ぶ。…① 1921 年、渡日し、明治大学法科に入学するが、まもなく退学する。…② 帰国後、朝鮮美展には参加せず、書画協会に数回参加。 培花高等女学校など幾つかの学校で教師として勤める。 1931 年 9 月、崇三画室開設。…③ 1948 年、淑明女子大学校美術科の教授。 1949～1961 年、国展の審査委員。大韓美術協会会長、芸術院会員。 1970 年、大韓民国文化芸術賞受賞。画家、美術教育家、美術行政家として活躍。	①『都相鳳』韓国国立現代美術館、 2002 年。 ②韓国民族文化大百科事典： www.encykorea.aks.ac.kr ③チェ・ヨル（최열）『韓国近代 美術の歴史 韓国美術史事典 1800-1945』ソウル：悦話堂、2006 年、279 頁。
18	孫昌漢 손창한	1902～ 平壤	1922 年入学	西洋画科撰 科	1924 年 2 月 21 日に授業料滞納で除名。	
19	金貴龍 김귀룡	1898～ 慶南 釜山	1922 年入学	西洋画科撰 科	1924 年 2 月 21 日に授業料滞納で除名。	
20	朴広鎮 박광진	1902～ 京畿道 開城郡	1923 年入学 1928 年卒業	西洋画科撰 科	西洋画科に入学してから、1927 年に、撰科に転入。 帰国後、1928 年、緑郷会の創立会員。1936 年、朝鮮美術院の創立会員。	
21	金鴻植 김홍식	1898～ 1960 全南	1923 年入学 1928 年卒業	西洋画科 特別学生		

		麗水郡				
22	康弼祥 강필상	1903～ 黄海道 載寧郡	1923 年入学 1928 年卒業	西洋画科 特別学生		
23	俞亨穆 유형목	1903～ 江原道 鉄原郡	1923 年入学 1926 年卒業	図画師範科	京城府の培花女子高等普通学校に就職。	
24	任璫宰 임숙재	1900～ 1937 忠南 天安郡	1923 年入学 1928 年卒業	図案科 特別学生		
25	申用雨 신용우	1903～ 京畿道 京城	1924 年 入学 1929 年 卒業	西洋画科 特別学生		
26	金浩龍 김호룡	1904～ 慶北 大邱府	1924 年入学 1929 年卒業	西洋画科 特別学生	京城府の貞培花女子高等普通学校に就職。	
27	金溶煥 김용환	1902～ 京畿道 高陽郡	1924 年入学	西洋画科 特別学生	1924 年 10 月 28 日に授業料滞納で除名。	
28	尹聖鎬 윤성호	1904～ 平南 平壤	1924 年入学	西洋画科 特別学生	1926 年 3 月 30 日に家の事情で退学。	
29	黃述祚	1904～	1925 年	西洋画科	帰国後、開城で美術教師の職に 5 年間付く。松都高等普通学校に在職した際に、当時学生であ	①木多恵美子「アバンギャルドと

	황술조	1939 慶北 慶洲郡	入学 1930 年 卒業	特別学生	った金景承を教える。 故郷の慶洲に帰り、古跡保存会に参加しながら作家活動をする。 プロレタリアの傾向の作品《煙突掃除夫》を東美会に出品。…① 1940 年、死後 1 年後、吉鎮燮らによってソウルで遺作展開催。	日韓プロレタリア 芸術運動 (아방가르드와 한일 프롤레타리아예술운동) 』『美学 ・芸術学研究』第 38 号、2013 年
30	李海善 이해선	1905～ 1983 京城	1925 年入学 1930	西洋画科 特別学生	1940 年から写真に転向し、白洋写真友会を組織する。李王家美術館の嘱託。 戦後、大韓写真芸術家協会を創立し、会長を歴任。	
31	宋秉敦 송병돈	1902～ 1967 忠南 公州郡	1925 年入学 1930	西洋画科 特別学生	帰国後、公州永明女学校に就職。牧日会の会員。 戦後、国展の推薦作家になる。ソウル大学校美術大学の非常勤講師。	
32	姜信鎬 강신호	1904～ 1927 慶南 普州郡	1925 年入学	西洋画科 特別学生	1927 年、在学中に死亡。	
33	金周經 김주경	1902～ 1981 忠北 鎮川郡	1925 年入学 1928 年卒業	図画師範科	1929 年 10 月に研究科に入学。1930 年 5 月に授業料滞納で除名。 帰国後、京畿中学校などで美術教師。 戦後直後、朝鮮美術建設本部の洋画部委員長。 1946 年、南朝鮮美術家同盟委員長をしてから、10 月に北朝鮮に行く。 平壤美術大学の前身である平壤美術専門学校の創設と共に校長になり、12 年間在任。 1947 年、第 1 回北朝鮮美術展に出品し、一等賞受賞。国旗や国章の図案に参加。 1949 年、北朝鮮美術家同盟の中央委員。 1958 年、平壤美術大学から移籍され、不遇の後に死去。	リ・ジェヒョン (리재현) 『朝鮮歴 代美術家編覧』平壤：文学芸術総 合出版社、1999 年。
34	朴南洙 박남수	1905～ 全南	1925 年入学	図案科 特別学生	事故により 1926 年 4 月 5 日から休学。1927 年 5 月 24 日、長期欠席で除名。	

		海南郡				
35	金瑑竣 김용준	1904～ 1967 慶北 大邱府	1926 年入学 1931 年卒業	西洋画科 特別学生	<p>画家、美術評論家、美術史学者として著名。</p> <p>帰国後には書画協会に出品。</p> <p>1930 年、東京美術学校出身者団体である東美展を創立し、1934 年には牧日会を創立し、1930 年代画壇を主導する。プロレタリア芸術運動に反対しながら、民族的な立場で芸術至上主義を主張する評論活動をする。</p> <p>1930 年代後半からは美術史研究に励み、『朝鮮美術大要』（1948 年）などを執筆。</p> <p>戦後、朝鮮美術建設中央本部で中心的な役割をする。ソウル大学校武術大学の初期教授。</p> <p>朝鮮戦争の際に、左翼系の朝鮮美術同盟の一員として活躍し、北朝鮮の方に渡る。</p> <p>平壤美術大学の教授として、新しい「朝鮮画」の創出に取り込む。</p> <p>『朝鮮画技法』（1960 年）、『朝鮮画彩色法』（1962 年）などの著述を通じて新しい彩色画の発展を模索し、北朝鮮における朝鮮画の理論的な基礎を作る。</p>	リ・ジェヒョン (리재현) 『朝鮮歴代美術家編覧』平壤：文学芸術総合出版社、1999 年。
36	吳占壽 오점수 (吳之湖)	1905～ 1982 全南 和順郡	1926 年入学 1931 年卒業	西洋画科 特別学生	<p>開城松都中学校に在職。</p> <p>朝鮮美術家同盟が結成される時、中央執行委員・美術評論担当として活動。</p> <p>朝鮮美術同盟の成立の際に、李仁星と共に共同副委員長になる。</p> <p>1946 年、光州で光州美術研究会を発足、1949 年には朝鮮大学校美術科教授になる。</p> <p>朝鮮戦争の時に左翼系の活動に参加し、一時投獄してから、1953 年に釈放され、復職。</p> <p>1968～1973 年、国展の審査委員。</p> <p>美術理論の方でも活発な活動をし、1938 年には印象主義芸術論に関して書いた「純粹絵画論」を『東亜日報』に連載。1939 年には『東亜日報』にピカソを批判する「ピカソと現代絵画」を総 5 回連載した。</p> <p>1973 年、国民勲章牡丹章を受章。</p> <p>1976 年、大韓民国芸術院の会員。</p>	
37	林學善 임학선	1904～ 京城	1926 年入学 1931 年卒業	西洋画科 特別学生		

38	金應杓 김응표	1902～ 平北 義州郡	1926 年入学 1931 年卒業	西洋画科 特別学生	日本名：金城文治 新義州の東公立中学校に就職。	
39	鮮于澹 선우담	1904～ 1984 平南 大同郡	1926 年入学 1929 年卒業	図画師範科	1929 年、海州公立高等普通学校に就職。 戦後、1946 年 3 月、北朝鮮芸術総連盟の常務委員。 1946 年 10 月～1948 年 9 月、北朝鮮美術同盟委員長。 朝鮮戦争の時には、中央美術製作所の所長。1953 年以後、朝鮮美術同盟絵画分科の委員長。 1956 年から朝鮮美術博物館の館長。1957 年、功勲芸術家。1958～1962 年、平壤美術大学の学長。	リ・ジェヒョン (리재현) 『朝鮮歴 代美術家編覧』平壤：文学芸術総 合出版社、1999 年。
40	金斗一 김두일	1902～ 平南 平壤	1926 年入学 1931 年卒業	彫刻科塑造 部特別学生	朝鮮戦争に数回にわたって入選。	
41	李順石 이순석	1905～ 1986 京城	1926 年入学 1931 年卒業	図案科 特別学生	卒業後、京城府의삼화신상회の図案科に勤務。 1931 年、コロンビア大学への留学のために、英文証明書の発行を請求した記録がある。 戦後、ソウル大学校美術大学の教授、国展の運営委員・審査員。芸術院の会員。	
42	朴根鎬 박근호	1902～ 全南 麗水郡	1927 年入学 1932 年卒業	西洋画科 特別学生		
43	朴魯弘 박노홍	1905～ 全北 全州	1927 年入学 1932 年卒業	西洋画科 特別学生		
44	李景濤 이경진	1901～ 慶南 陝川	1927 年入学 1932 年卒業	西洋画科 特別学生		
45	李馬銅 이마동	1906～ 1981	1927 年入学 1932 年卒業	西洋画科 特別学生	1939～1951 年、普城高等普通学校の美術教師。 1963 年以後、弘益大学校美術大学の教授・学長を歴任。国展の推薦作家・招待作家・審査員。	

		忠南 牙山郡			1958 年、牧友会を結成し、会長になる。 1971～1972 年、韓国美術協会の会長。ソウル特別市文化賞受賞、文化勲章・冬柏章受章。	
46	韓三鉉 한삼현	1907～ 平北 義州郡	1927 年入学 1932 年卒業	西洋画科 特別学生		
47	吉鎭燮 길진섭	1907～ 1975 平南 平壤府	1927 年入学 1932 年卒業	西洋画科 特別学生	1930 年、白蠶洋画会の結成に参加。 1931 年、コロンビア大学への留学のための英文証明書の発行を請求したことがある。 1934 年、牧日会の結成に参加。1937 年、平壤で初個展を開催。文芸雑誌『文章』の編集員。 戦後、朝鮮美術同盟のソウル支部長。1947 年、朝鮮美術同盟の委員長。 1948 年に北朝鮮に行き、北朝鮮最高人民大会の代議人。国立美術製作所の所長。 1952 年、美術家同盟絵画分科の委員長。1953 年、朝鮮美術家同盟副委員長。	
48	金應璫 김응진	1907～ 1977 京城	1927 年入学 1932 年卒業	西洋画科 特別学生	1946 年から養正高等学校の美術教師に就く。国展の審査員を歴任。	
49	金道卿 김도경	1907～ 京城	1927 年入学 1930 年卒業	図画師範科	中等学校図画および手工教員免許状を取得。1940 年現在、京城府に在住。	
50	文錫五 문석오	1904～ 平南 平壤	1927 年入学 1932 年卒業	彫刻科塑造 部撰科	1932 年 4 月から研究生になっているが、同年の 12 月 10 日に授業料滞納で除名。	
51	洪得順 홍득순	1908～ 京畿道 水原郡	1928 年入学 1933 年卒業	西洋画科 特別学生	帰郷後、1935 年にシカゴ美術大学への入学のために、英文証明書を東京美術学校に請求した記録がある。	
52	金斗濟 김두제	1908～ 全南 海南郡	1928 年入学 1933 年卒業	西洋画科 特別学生		

53	崔鳳彬 최봉빈	1907～ 平北 義州郡	1928 年入学	西洋画科 特別学生	1930 年 5 月 31 日に授業料滞納で除名。	
54	權雨澤 권우택	1911～ 全北 全州郡	1929 年入学 1934 年卒業	西洋画科 特別学生	京城府に在住。梨花高等女学校に就職。	
55	李鳳榮 이봉영	1905～ 忠南 牙山郡	1929 年入学 1934 年卒業	西洋画科 特別学生		
56	孫一峰 손일봉	1907～ 1985 慶北 慶洲郡	1929 年入学 1934 年卒業	西洋画科本 科	日本名：伊山 戦後、国展の推薦作家・招待作家。韓国新美術会の創立委員。	
57	姜昌奎 강창규	1906～ 1977 慶南	1929 年入学 1933 年卒業	漆工芸科撰 科	1933 年 3 月に卒業後、研究科に入学するが、同年 11 月に授業料滞納で除名。 戦後、国展の審査員を歴任。	
58	沈亨求 심형구	1908～ 1962 京畿道 竜仁郡	1931 年入学 1936 年卒業	西洋画科	1940 年、朝鮮美展の推薦作家。 1941 年、「絵画奉公」「内鮮一体」をうたった「朝鮮美術家協会」に参加。『会心』 『新時代』などの雑誌に戦争を美化する挿絵を描いた。…① 戦後、1946 年、梨花女子大学校美術科の創立に関わり、初代主任課長・教授歴任。 ソウル市文化委員。1949 年、大韓民国芸術院の会員。	①尹凡牟「日帝のために筆を握った画家たち（일제를 위해 붓을 든 화가들）—金殷鎬와 沈亨求—」『人物にみる親日派の歴史(인물로 보는 친일파의 역사)』歴史批評社、1993 年。
59	金仁承 김인승	1911～ 2001 京畿道	1932 年入学 1937 年卒業	西洋画科	卒業後、1938 年 11 月 5 日～1940 年 1 月 15 日間、研究科に在学。 1940 年、朝鮮美展の推薦作家。 1941 年、「絵画奉公」「内鮮一体」をうたった「朝鮮美術家協会」に参加。…①	①李泰浩「1940 年代初め、親日美術の軍国主義的な傾向性(1940년대초반 친일미술의

		開城府			1947～1975 年、梨花女子大学校美術科の教授。 1949 年、国展の開設と共に推薦作家および審査員。 1957 年、芸術院の会員。1958 年、牧日会の創設会員。韓国美術協会の理事長。 1969 年、文化勲章受章。1970 年代にアメリカに移住。	군국주의적인 경향성)」『近代韓国美術論叢』 、學古齋、1997 年。
60	徐鎭達 서진달	1910～ 1947 慶北 大邱府	1934 年入学 1939 年卒業	油絵科 予科	1941 年、大邱で美術教師。1942 年、満州のハルビン大学の教師。 戦後、釜山で美術研究所を運営していたが、37 歳で結核で夭折。	
61	尹承旭 윤승옥	1914～ 京城	1934 年入学 1939 年卒業	彫刻科塑造 部予科	卒業後、1939 年 4 月 28 日～1942 年 3 月 31 日間、研究科に在学。 戦後、ソウル大学校美術大学の教授。国展の審査員。 朝鮮戦争の時に拉致され、行方不明になる。	
62	金景承 김경승	1915～ 1992 京畿道 開城府	1934 年入学 1939 年卒業	彫刻科塑造 部予科	金仁承の弟。 1932 年頃に大塚陸と池袋のすずめが丘で共同生活していた。…① 1933 年、川端画学校で 1 年間デッサンを学習。 1941 年、朝鮮美展の彫刻部門で昌徳宮賞受賞、1942 年の同展では朝鮮総督賞受賞。 戦後、国展の審査員、弘益大学校美術大学教授、芸術院の会員。	①情報提供：足立元氏
63	禹東和 우동화	1913～ 黄海道 海州郡	1935 年入学	彫刻科塑造 部予科	1936 年 12 月から 1937 年 4 月まで家庭事情で休学。 1937 年 12 月 6 日に授業料滞納で除名。	
64	李純鍾 이순중	1915～ 1979 京城	1936 年入学 1941 年卒業	油絵科 予科	日本名：青山	
65	奇義關 기의벽	1913～ 慶南 金海郡	1936 年入学	油絵科 予科	日本名：杉浦 1939 年 9 月 10 日に家の事情で退学。	

66	金鍾瑛 김중영	1915～ 1982 慶南 昌原郡	1936 年入学 1941 年卒業	彫刻科塑造 部予科	戦後、1948～1980 年、ソウル大学校美術大学彫刻科の教授。 1953～1980 年、国展の推薦作家・審査員。 1953 年、イギリスで開かれた「国際無名政治囚のための記念碑（The Unknown Political Prisoner）」展（Tate Gallery、1953 年 3 月 14 日～4 月 30 日）で《裸像》が入選。…① 韓国美術協会の代表委員、韓国デザインセンターの理事長を経て、1976 年に芸術院の会員。 抽象彫刻の先駆者。	①呉光洙『金鍾瑛：韓国現代彫刻 の先駆者（한국 현대조각의 선구자）』時空社、2013 年。
67	金在善 김재선	1918～ 1948 慶南 馬山府	1937 年入学 1941 年卒業	油絵科 予科	日本名：金子善三郎。1941 年 12 月に卒業。 戦後、ソウル中学校の教師。1948 年、金在善・宋琦の遺作展が開かれた。	
68	曹圭奉 조규봉	1917～ 京畿道 仁川府	1937 年入学 1941 年卒業	彫刻科塑造 部予科	1941 年 12 月に卒業。 1941 年、朝鮮美展の朝鮮総督賞受賞。無鑑査になる。1943 年、第 6 回満州国美術工芸書道展の 彫塑部で特選。	
69	尹孝重 윤효중	1917～ 1967 京畿道 長端郡	1937 年入学 1941 年卒業	彫刻科 木造部 予科	日本名：伊東 1943 年、朝鮮美展で朝鮮総督賞受賞、1944 年には昌徳宮賞受賞。 1944 年、決戦美術展で京城日報社長賞受賞。 1949～1957 年、弘益大学校美術部の彫刻科長として同校の教育行政を主導した。…① 国展の推薦作家・審査員。芸術院の会員。 大韓美術協会の副委員長、韓国美術協会の副理事長を歴任。 1950 年代半ば、国展の主導権をめぐって、彼がリードした大韓美術協会とソウル大学校の張勃 がリードした韓国美術協会との葛藤が深化し、派閥争いになっていた。…② 大統領や政治家など、多数の著名人の肖像彫刻を残している。…②	①呉光洙「韓国現代美術 60 年・ 弘益美術 60 年（한국현대미술 60 년・홍익미술 60 년）」『韓国現代 美術史の中の弘益美術（한국현대 미술사속의 홍익미술）』弘益大学 校美術大学、2009 年、7 頁。 ② 張遇聖『画壇風霧七十年』美 術文化、2003 年、223 頁。
70	金河鍵 김하건	1915 ～？ 咸北	1938 年入学 1942 年卒業	油絵科 予科	1942 年 9 月に卒業。 在学中の 1941 年、第 2 回美術文化協会展に出品する。…① 1942 年、第 3 回美術文化協会展に《港の設計》を出品、美術文化賞を受賞する。…①	①金英那「1930 年代の在東京朝 鮮人留学生たち—前衛グループの 活動を中心に（1930 년대

		鏡城郡			1942 年、シュルレアリズム画風の卒業制作《睡眠》を提出する。…② 1943 年、美術文化協会の会員となる。…① 朝鮮戦争の時に行方不明になる。	동경유학생들-전위그룹전의 활동을중심으로)」『近代韓国美 術論叢』ソウル：學古齋、1992 年。 ②東京芸術大学附属図書館蔵「卒 業制作写真(アルバム)」1942 年。
71	鄭寬澈 정관철	1916～ 1983 平壤府	1938 年入学 1942 年卒業	油絵科 予科	1942 年、シュルレアリズム画風の卒業制作《潮浪》を提出する。…① 金河鍵、韓相益と共に黄土会を結成。 1943 年から平壤公立商業学校の美術教師。戦後、朝鮮共産党の平安南道地区委員会の宣伝部で活動。平壤市美術同盟の常務委員長。 1949 年、北朝鮮美術家同盟委員長。朝鮮戦争の時に従軍画家として宣伝画などを制作。最高人民会議の第 5 期代議員。美術分野における初の功勲芸術家。人民芸術家。 1986 年 12 月、金正日の許可で死後 3 周期に朝鮮美術博物館で鄭寬澈・鄭種汝の 2 人展が開かれる。…②	①東京芸術大学附属図書館蔵「卒 業制作写真(アルバム)」1942 年。 ②리・ジェヒョン (리재현)『朝鮮 歴代美術家編覧』平壤：文学芸術 総合出版社、1999 年、345－350 頁。
72	鄭寶永 정보영	1918～ 黄海道 海州	1938 年入学 1942 年卒業	油絵科 予科	日本名：鳥川 1942 年 9 月に卒業	
73	韓相益 한상익	1917～ 咸南 咸州郡	1938 年入学	油絵科 予科	1942 年 3 月 10 日に個人的な事情で退学。 後輩の金興洙によると、「修身」の配属将校に抵抗したために退学されたという。…① 戦後、北朝鮮の画壇で活動。	①金興洙「私の留学時代 (나의 유학시절)」『毎日経済新聞』19 86 年 1 月 9 日。
74	李海晟 이해성	1916～ 京畿道	1939 年入学 1943 年卒業	油絵科 予科	1943 年 9 月に卒業。 京畿女子高などで美術教師をしていた。…① 1947 年頃に京畿中学に転任する。朝鮮戦争の時に北朝鮮に渡る。…②	①弟子・沈竹子とのインタビュー、 2010 年 11 月 4 日。 ②弟子・崔景漢とのインタビュー、 2010 年 11 月 3 日。
75	金永旻	1921～	1939 年入学	油絵科	1940 年の在学中に死亡。	

	김영민	1940 平壤		予科		
76	金興洙 김흥수	1919～ 咸南 咸興府	1940 年入学 1944 年卒業	油絵科 予科	<p>在学中に入隊を拒否して朝鮮行きの船に乗る。…①</p> <p>学校から卒業状を貰ったのは朝鮮戦争中の臨時首都の釜山である。…①</p> <p>1955～1961 年、パリ留学。帰国後、国展の推薦作家、審査委員を歴任。</p> <p>1979 年、韓国国立現代美術館で招待展開催（11 月 23 日～12 月 22 日）。…②</p> <p>1996 年、文化勲章玉冠章受章、1999 年、金冠文化勲章受章。…②</p> <p>2002 年、東京芸術大学大学美術館で「平山郁夫、金興洙 2 人展」が開催。</p>	<p>①金興洙「私の留学時代（나의 유학시절）」『毎日経済新聞』1986 年 1 月 9 日。</p> <p>② 韓国文化芸術委員会・芸術資料院ホームページ： www.art500.or.kr/</p>
77	李達周 이달주	1920～ 1962 黄海道	1940 年入学 1944 年卒業	油絵科 予科	<p>1944 年 9 月に卒業。</p> <p>戦後、在日朝鮮人となる。…①</p>	①金興洙「私の留学時代（나의 유학시절）」『毎日経済新聞』1986 年 1 月 9 日。
78	朴勝龜 박승구	1919～ 京城	1940 年入学 1944 年卒業	彫刻科 木造部 予科	<p>日本名：木戸（1943 年 1 月 28 日に「木戸」と改姓を申告）</p> <p>1940 年、第 3 回在東京美術協会展に出品。</p> <p>戦後、京畿中学校などで美術教師をする。…①</p> <p>朝鮮戦争の時に北朝鮮に行く。朝鮮美術家同盟彫刻工芸分科の指導員。</p>	①弟子・崔景漢とのインタビュー、2010 年 11 月 3 日。
79	仁川相 哲	1921～ 咸北 鏡城面	1941 年入学	彫刻科 塑造部	在学中に志願入隊。1947 年 3 月 31 日、長期休学のため除籍。	
80	孫東仁 손동인	1920～ 京畿道	1942 年入学 1950 年卒業	油絵科 予科	<p>日本名：杉野仁彦</p> <p>1944 年 1 月 20 日～1947 年 2 月 5 日、志願入隊のため休学。1950 年卒業。</p>	
81	牧山佳 秀	1924～ 忠北	1942 年入学	油絵科 予科	1944 年 4 月 12 日に退学。	
82	안찬홍	1921～ 平南	1942 年入学	彫刻科 塑造部	<p>日本名：安田光男</p> <p>1944 年 1 月 21 日に志願入隊のため休学。1946 年、第 2 年生になっていたが、1947 年 3 月 31 日に長期欠席のため除籍。</p>	

83	李寅斗 이인두	1922～ 慶北	1943 年入学 1952 年卒業	油絵科 予科	日本名：藤本 1944 年 1 月 8 日に退学し入隊する。1947 年 9 月 9 日に再入学。 1952 年 3 月 3 日に藤本から「李」へと変更申告。1952 年 3 月卒業。	
84	백태민	1921～ 慶北	1943 年入学 1944 年中退	彫刻科 塑造部	日本名：白川泰敏 1944 年 3 月 31 日に退学。	
85	大原泰 景	1921～ 京畿道	1943 年入学	工芸科 鍛金部	1943 年 12 月 1 日に入隊。	
86	張島基 殷	1922～ 忠南	1945 年 入学	彫刻科 木造部	1947 年 3 月 31 日、長期休学のため除籍。	

<表 2> 文化学院(1921～1943、1946～現在) 美術科 (1925～)

* 「文化学院の資料」というのは、文化学院から頂いた情報を指す (2014 年 1 月 27 日)。

戦争で校舎が消失しているため、昔の文化学院在学学生の名簿は残っておらず、卒業した人のみ、後日に情報を収集してまとめた 10 名のリストである。

	氏名	生没年、 出生地	入学・卒業年	専攻	活動情報	情報出典
1	朴性圭 박성규	1910～ 1994、 慶北 大邱	1933 年入学 1936 年卒業	美術部	少年時代を慶北清島で送る。…① 1930 年、京城第一高等普通学校卒業。…① 文化学院卒業後、毎日新報の記者として東京に派遣され勤務。 1945 年、帰国、釜山女子中学校に勤める。 1950 年代にソウルに上京し、パステル画家として活動する。 1948 年「解放記念美術展」、1949 年「釜山学校美術研究会 教師作品展」にパステルの絵を出品。1951 年、「朴性圭・李俊二人展」 1952 年、UN 軍司令部の専属画家として日本に滞在。 1975 年、「朴一舟」に改名し、フランスに渡る。 1979～1989 年、Katia Granoff 画廊と契約して活動。	①「清島の色を放つ作家たちの努力をみて (청도색채담은 작가들의 노력한곳에)」『경안일보』2014 年 7 月 3 日。 ②「元老が証言する 20 世紀の韓国美術」『月刊美術』1996 年 10 月号。 ③チェ・ヨル (최열) 「文化学院の朝鮮人学生 (문화학원의 조선인학생)」『人物美術史学』第 8 号、2012 年。
2	李哲伊 이철이	1909 ～ 1969、 春川	1934 年入学 1937 年卒業	美術部	1927 年～1932 年、春川公立高等普通学校卒業。 1930 年、第 9 回朝鮮美展にて《風景》が入選し、翌年の第 10 回でも入選。 1932 年～1934 年、川端画学校修了。 1934～1937 年、文化学院在学、卒業。 「石井柏亭の影響から具象作品を堅持し、特に水彩画の影響を受けた。他の朝鮮人留学生がモダニズムを求めて自由美術家協会展などに出品したことに対し、李哲伊は具象系の一水会に興味を寄せていた。」劉永國の証言。 1937 年、朝鮮の春川公会堂にて個展 (6. 20～21)。	遺族 金福基「忘れられた在野作家・李哲伊 (잊혀진 재야작가 이철이)」 『季刊美術』第 46 号、1988 年。

					<p>1938 年、第 1 回在東京美術協会展（白牛会）に《静物》出品（4. 23～27、於・和信画廊）。1939 年～1941 年、朝鮮美展第 18 回、19 回、20 回に入選。</p> <p>1940 年、第 3 回在東京美術協会展に《窓ぎわ》《静物》出品（9. 5～10、於・景福宮美術館）</p> <p>1945 年、朝鮮美術建設本部の会員になる。</p> <p>1945 年～1968 年、韓国の英彰中学校、城東高等学校、大東商業高等学校などで美術教師として働く。</p> <p>1960 年、朝鮮日報主催の第 4 回現代作家招待展に《作品 S.R》出品。その後、1962 年の第 6 回と 1963 年の第 7 会展に出品。</p> <p>1960 年代から新紀会に参加。この頃から抽象へと変化した。</p> <p>1988 年、『季刊美術』第 46 号の「忘れられた在野作家・李哲伊」記事掲載。</p> <p>国立現代美術館に《自画像》（1930）、《風景》（1936）《虐殺》（1951）が所蔵。ソウル市立美術館に《マポナル》（1947）所蔵。</p>	
3	劉永國 유영국	1916 ～ 2002、 慶北 蔚珍	1935 年入学 1938 年卒業	美術部	<p>蔚珍(울진)の裕福な家庭の三男として生まれる。</p> <p>日本滞在時、「独立美術協会」展、「自由美術家協会」展、「NBG/Neo Beaux-Art Group/洋画」展などに参加。</p> <p>1943 年帰国。蔚珍で漁師をしながら美術とは断絶した生活を送る。</p> <p>1947（ソウル大資料には 1948 年）～1950 年、ソウル大の応用美術科で講義。</p> <p>再び故郷に戻り、造り酒屋をして儲けるが、作品制作に専念したく、上京する。</p> <p>1966～1970 年には弘益大の西洋画科で教授。</p> <p>「新写実派」展、「モダンアート」展、朝鮮日報主催の「現代作家招待」展、多数の個展にて一貫して抽象作品を発表した。</p> <p>2016 年、国立現代美術館で回顧展が開かれる。「劉永國、絶対と自由」展（2016. 11. 4～2017. 3. 1）</p>	サムスン・リウム美術館『韓国美術記録保存所資料集 第 3 号』、2004 年。

4	金秉騏 김병기	1916～ 平壤	1935 年入学、 1939 年卒業	美術部	<p>東京美術学校出身の金瓚永(1893～1958)の息子。…②</p> <p>1933 年、광성高等普通学校を卒業し、東京に渡り、川端画学校に入学。…③</p> <p>1935 年、アバンギャルド洋画研究所に入所、築地小劇場で公演された東京学生芸術座의 주영섭의 <나루>、유치진의 <牛>の舞台背景の制作に関わる。…③</p> <p>1936 年、文化学院入学。アバンギャルド洋画研究所の研究生たちが結成した「白蜚会」に加担し、金煥基・吉鎮燮などと共に第 1 回「白蜚展」に参加。…③</p> <p>1939 年、帰国し結婚する。平壤の「文学芸術総同盟」で活動。</p> <p>1944 年、文学洙、李仲燮などと共に平壤で 6 人展を開催。</p> <p>1945 年、北朝鮮文化芸術総同盟傘下の美術同盟の書記長、翌年に「朝鮮造形芸術同盟」に参加。</p> <p>1947 年、韓国の方へ行く。1951 年、従軍画家団の副団長</p> <p>1953 年～1958 年、ソウル大で「芸術論」と絵画科の実技講義…②</p> <p>1954 年、ソウル芸術高等学校の美術科長(1965 年まで)として美術科設立に主導的な役割。…②</p> <p>1964 年、韓国美術協会の理事長。</p> <p>1965 年、サンパウロビエンナーレのコミッショナー活動をきっかけにアメリカ生活を始める。ニューヨークに定着し、1966 年に Skidmore College で東西美術比較論を講義。…②</p> <p>1978～1987 年、Empire State College で美術指導教授。…②</p> <p>1986 年、ソウルのガナ画廊で招待個展。その後、アメリカと韓国を行き来しながら作品活動をしている。2006 年には、LA に移住。…③</p> <p>2014 年 12 月 2 日～2015 年 3 月 1 日、韓国国立現代美術館にて個展の<金秉騏：感覚の分割>展が開かれる。…③</p>	<p>①文化学院の資料。</p> <p>②サムスン・リウム美術館『韓国美術記録保存所資料集 第 3 号』、2004 年。</p> <p>③『金秉騏：感覚의 分割』展図録、韓国国立現代美術館、2014 年。</p>
5	文學洙 문학수	1916 ～ 1988、	1936 年入学 1939 年卒業	美術部	<p>弁護士の文鳳儀の庶子に生まれる。</p> <p>1929 年、平壤サンス公立普通学校を卒業し、定州の五山高等普通学校に入学するが、同盟</p>	<p>文化学院の資料。</p> <p>安惠靖「文學洙의 生涯와</p>

		平壤			<p>休学によって中退する。</p> <p>1932 年、渡日し、1933 年から川端画学校で修学。</p> <p>1935 年、文化学院に入学。在学中の 1937 年～1940 年まで、自由美術家協会で活動する。</p> <p>1938 年、第 2 回自由美術家協会展にて《馬が見える風景》で協会賞受賞。</p> <p>1940 年、美術創作家協会の京城展に参加。</p> <p>1941 年、朝鮮総督府主催の朝鮮美展を排撃し個性を重視する「朝鮮新美術家協会」を結成し、創立展を開催。（李仲燮、李快大、劉永國参加）</p> <p>日本留学期間には、シュルレアリスム画風を志向していたが、戦後に社会主義リアリズムに一変する。</p> <p>1944 年、帰国し、平壤第 4 女子中学校の図画教員、平壤芸術文化協会を結成し美術部長になる。共産主義思想を受け入れる。</p> <p>1950 年、平壤美術専門学校の教務主任、国立美術学校の絵画学部の講座長</p> <p>1964 年、朝鮮美術家同盟の油絵分科委員長</p> <p>1971 年、主体思想により、油絵より朝鮮画を中心に発展させる国家方針の大変換があり、一般作家の身分へと降任される。</p>	<p>絵画研究」、全南大学校大学院 美術学科理論専攻修士論文、2006 年。</p> <p>韓国民族文化大百科事典、 韓国学中央研究院</p>
6	金宗燦 김종찬	?～?	1936 年入学 1938 年まで在学	美術部	<p>平壤スンイン中学校卒業</p> <p>1936 年に帝国美術学校を中退し、文化学院に転学。</p> <p>1939 年、第 28 回二科展に《山西오지 야전病院》入選。…①</p> <p>1941 年、新美術家協会展に出品。</p> <p>太平洋戦争の時に、日本軍の従軍画家として参戦。</p> <p>聖戦美術展に出品し、親日画家として烙印づけられる。</p> <p>戦後、精神異常で不幸な末年を送ったそうであるが、正確な没年は分らない。</p> <p>国立現代美術館に《土垣家》（1939）が所蔵。</p>	<p>文化学院の資料。</p> <p>①「山西오지의 야전病院」 『朝鮮日報』1939 年 10 月 4 日。</p> <p>②チェ・ヨル（최열）『韓国近代美術の歴史 韓国美術史事典 1800-1945』ソウル：悦話堂、2006 年、424 頁。</p> <p>③韓国国立現代美術館ホームページ。</p>
7	李仲燮	1916 ～	1937 年入学、	美術部	<p>1916 年、裕福な家の末子で生まれるが、2 歳の時に父親が精神病で他界。</p>	<p>文化学院の資料。</p>

	이중섭	1956、 平安南道 平原	1940 年卒業 以後、研究科 に進学1942 年 か1943 年に修 了。		<p>1923 年、外祖父がいる平壤に行き、ゾンロ普通学校に入学。同期には、金秉騏がおり、彼の父親・金瓚永の家を訪問し、彼の画具や美術雑誌などに接した経験が後の画家への道に影響を与えた。</p> <p>1930 年、定州の五山高等普通学校に入学し、美術部に加入。同期には、安基豊（1914～?）、先輩としては 文學洙がいた。1931 年には、アメリカ留学出身の任用璉と女子美を中退してパリ留学をしてから帰国した白南舜夫婦が教師として赴任し、美術教育を受ける。1932～1935 年、＜全朝鮮学生作品展覧会＞で入選。</p> <p>1936 年、親戚の兄弟らが留学していた東京に渡る。帝国美術学校に進学するが、1 年を満たせずに中退。</p> <p>1937 年 4 月、文化学院に入学。石井拍亭から「顎李」というあだ名を貰う。</p> <p>1938～1940 年、自由美術家協会展に入選。</p> <p>1941 年、帝国美術学校の先輩であった李快大と朝鮮新美術家協会を結成し、3 月には東京で、5 月には京城で創立展を開く。美術作家協会の会友になる。</p> <p>1943 年 8 月、帰国。</p> <p>1945 年、文化学院の後輩であった山本方子（1921～ ）と元山で結婚。</p> <p>1946 年、元山師範学校の美術教師につく。</p> <p>朝鮮戦争時に釜山と済州、統営に避難し、新聞雑誌の挿絵を描きながら制作をする。</p> <p>1952 年、生活苦のため、妻と 2 男を日本に送る。</p> <p>1956 年、精神病、肝臓炎などで闘病中に他界。</p>	<p>『李仲燮誕生 100 周年 李仲燮、百年의神話』展図録、国立現代美術館、2016 年。</p> <p>チェ・ヨル（최열）「文化学院の朝鮮人学生（문화학원의 조선인학생）」『人物美術史学』第 8 号、2012 年。</p>
8	李禎奎 이정규	1916 以後 ～?	1937 年入学	美術部	李仲燮と同期であったことが知られている。	<p>チェ・ヨル（최열）「文化学院の朝鮮人学生（문화학원의 조선인학생）」『人物美術史学』第 8 号、2012 年。</p>
9	李周行 이주행	1917～?	1937 年入学	美術部	李仲燮と同期であったことが知られている。1941 年、帝国美術学校彫刻科に入学。戦後、画家としての行方は見られない。	

10	洪俊明 홍준명	?～?	1937 年入学	美術部	1939 年 6 月、独立美術展に入選。 1940 年 3 月、第 10 回独立美術展に《玄武門（현무문）》出品。	文化学院の資料。 チェ・ヨル（최열）『韓国近代美術の歴史 韓国美術史事典 1800-1945』ソウル：悦話堂、2006 年、424、454 頁。
11	安基豊 안기풍	1914～?、	1937 年入学 1940 年卒業	美術部	1930 年、平安北道定州の五山高等普通学校に入学し、美術部に加入。 高校時代と文化学院時代に李仲燮と同期であったことが知られている。 帝国美術学校から転校。 1940 年、第 10 回独立展に《太陽と女たち》入選。美術創作家協会展に出品。第 3 回在東京美術協会展に参加。 戦後、画家としての行方は見られない。	文化学院の資料。 『李仲燮誕生 100 周年 李仲燮、百年의 神話』展図録、国立現代美術館、2016 年、249 頁。 『帝国美術学校와 朝鮮人留学生들：1929－1945』ソウル：ヌンピッ（눈빛）、2004 年、149 頁。
12	朴成煥 박성환	1919 ～ 2001、 黃海道 海州	1940 年入学、 1941 年中退	美術部	1938 年、来日。川端画学校を経て、文化学院へ。 1942～1944 年、二科会に 3 回出品。 帰国後、1945 年の海州での美術学校創立に主導的な役割果たす。 朝鮮戦争後、多数の中・高校で美術教師。徐羅伐芸術大学の美術大学創設時に教授として就任。 1950 年＜越南作家 3 人展＞を始めとして多数の団体展・個展開く。 国立現代美術館に《ハン川大橋》（1954）、《望郷》（1971）、《群舞》（1976）など所蔵。	サムスン・リウム美術館『韓国美術記録保存所資料集 第 3 号』、2004 年。 韓国国立現代美術館ホームページ。
13	金建中 김건중	1917 ～ 1971、 咸鏡南道 洪原郡	1943 年卒業	美術部	北朝鮮の版画家。 教員の家庭で生まれ。 徴集を避けて軍需生産をするゴム工場に就職し、働きながら作品制作。 終戦を日本で迎え、固定職の無い生活をする。 1949 年、帰国、ソウルの中学校の図画教員。	文化学院の資料。 リ・ジェヒョン（리재현）『朝鮮歴代美術家編覧』平壤：文学芸術総合出版社、1999 年、351－355 頁。

					<p>朝鮮戦争期に人民軍に入隊、1951年に除隊し、朝鮮美術家同盟咸鏡北道委員会で研究生を経て、市内美術協同の画工として直販物制作。</p> <p>1958年、咸北日報社の美術家になり、道内の工場や農村、漁村の労働者をテーマに多くの版画を制作。</p> <p>初期の白黒版画から単色版画や多色版画へと変化。</p> <p>作品テーマは、社会主義現実（天理馬時代）の労働者、あるいは抗日革命闘争を主に扱っている。《溶解工》(1958)、《빨치산녀장군김학실영웅》(1959)、《조선소에서》(1961)など。</p>	
14	李乗圭 이승규	?～?	1943年卒業	美術部		文化学院の資料。

<表 3> 大阪美術学校

	氏名	生没年、 出生地	入学・卒業年	専攻	活動情報	情報出典
1	金瑠守 김류수	不詳	1932 年入学 卒業年不詳	不詳	昭和 7 年 4 月の新入学生として名前がある。	『大阪美術学校校友会月報』1932 年 5 月号
2	鄭鍾汝 정종여	1914～ 1984、 慶南 居昌	1934 年入学、 1939 年卒業 後、 研究科入学、 1942 年卒業	日本画	<p>最初には東京に渡り、太平洋美術学校で西洋画を学んだ後、日本画へと転向し、大阪美術学校に入学。</p> <p>1936 年第 15 回朝鮮美術展覧会に「秋郊」で入選し、その後同展にて 11 回の入選と 2 回の特選。</p> <p>1942 年、卒業後に朝鮮へ帰国。</p> <p>戦後の 1946 年、朝鮮造形芸術同盟の設立会員、1947 年に朝鮮美術同盟の東洋画部委員長に就く。</p> <p>1948 年、初個展を開く（12.2～8、東和画廊）</p> <p>1950 年、朝鮮戦争の時に北朝鮮へ行く。</p> <p>1954 年から 10 年間、平壤美術大学に在職しながら「朝鮮画」の理論体系を設立。1961 年、文芸総中央委員会委員。1964 年、朝鮮美術家同盟中央委員会副委員長・朝鮮画分課委員長。1974 年、「功勲芸術家」になり、1982 年には「人民芸術家」の称号を貰う。</p> <p>現在、韓国では遺族を中心とする「青谿・鄭鍾汝記念事業会」が発足し、資料収集・調査を行っている。</p>	青谿・鄭鍾汝記念事業会ホームページ : http://www.jongyeo.com
3	金永大 김영대	不詳	1934 年入学、 卒業年不詳	西洋画	「本科 2 学年へ進級」した西洋画部の名簿に名前がある。	『大阪美術学校友々會・會誌』1935 年 6 月号。
4	金洙坤	1913 ～	1934 年入学	不詳	「本科 1 学年」の名簿に名前がある。	「校内消息」『大阪美術学校友々會・

	김수곤	1968、 慶北 清道			1935 年に太平洋美術学校へ入学した人物と同一人物に見られる。 以後は、「太平洋美術学校」欄を参照。	會誌』1934 年 5 月号。
5	李鐘舞 이종무	不詳	1934 年入学、	不詳	「本科 1 学年」の名簿に名前がある。	
6	金壽山 김수산	不詳	1930 年代半ば に在学	日本画	第 7 回大美展に出品した「溪山禪室」に対する矢野橋村による評がある。「八大山人の画風を模したもの。気持はよく現はれて居る。」	『大阪美術学校友々會・會誌』1934 年 7 月大美展号、7 頁。
7	金潤玖 김윤민	1919～ 1999、 慶南 南海	1937 年入学 1941 年卒業	西洋画	1927 年、結婚した姉に連れられ渡日。 1936 年、平野実業学校を卒業。 1945 年 5 月、帰国し、故郷に戻る。 1946 年、慶南中学校の美術教師として赴任し、釜山に定着。その後、釜山師範学校などで 38 年間に渡る教職生活を送る。 1949 年、慶南美術研究会の結成に参加。 1953 年、「土壁会」結成に参加。 1974 年、56 歳の時に、初個展。 1986 年、釜山市文化賞受賞	『釜山の物故作家 6 金潤玖』展図録、釜山市立美術館、2011 年。 釜山文化財団電子アーカイブ： http://e-archive.bscf.or.kr
8	白榮洙 (日本名 ：水原 清) 백영수	1922～ 京畿 水原	1940 年入学 卒業年不詳	西洋画	2 歳の時、母親と一緒に渡日し、幼年時代と学生時代を大阪で送る。 大阪美術学校入学前に上京し、太平洋美術学校に暫く通う。 1945 年、韓国へ帰国。木浦に居住しながら高等女学校と木浦中学校の美術教師に就く。 1946 年、朝鮮大学美術科の創立に関与。 1953 年、ソウルに移住。 1977 年、ニューヨークを経てパリへ移住。	『白榮洙 絵画 70 年』展図録、光州市立美術館、2012 年。 백영수 『성냥갑 속의 메시지』文学思想社、2000 年など

					<p>1979 年、パリの読売画廊と全属契約。</p> <p>2011 年、パリの生活を整理して韓国に帰国。</p> <p>2012 年、ドキュメンタリー映画「仮面と鏡」の主演。同年度、光州市立美術館にて「白榮洙 絵画 70 年」展が開催。(2012. 12. 4～2013. 2. 24)</p>	
9	朴尙根 박상근	1914～?、 不詳	入学・卒業年 不詳	不詳	<p>帰国後の 1939 年(25 才の時)、京城駅の譲渡所で荷物証券を偽造、約 5 千ウォンの被害を犯したことで、西大門警察署に逮捕された事実が当時の新聞記事に残っている。「かつて大阪美術学校を卒業して帰国し、決まった職が無いまま過ごし、学校時代に学んだ彫刻および他の技術を利用して人の荷物証券を偽造したそうだ。」</p>	「荷物證券을 偽造 五千圓을 騙財」東亞日報、1939 年 7 月 19 日。
10	尹在珩 (日本名:徳田 ○○) 윤재우	1917～ 2005、 全南 康津	1940 年入学 1944 年卒業	西洋画	<p>14 歳の時に絵画を学ぶために東京へ渡る。</p> <p>1934～1937 年、大阪市立実業学校終了。</p> <p>1944 年、第 19 回朝鮮美術展覧会に「5 月の森」が入選。</p> <p>1946～49 年、光州師範高校教師。</p> <p>1948 年、朝鮮大学校美術科に出講、翌年から 1 年間教授に就く。</p> <p>1964～65 年、徐羅伐芸術大学(現・中央大学校芸術大学)美術科で理論を講義。</p> <p>1965～69 年間、ソウル特別市教育委員会中等教育科奨学士。</p> <p>1969～77 年間、善隣中学校の教頭、ソウル女子高校の教頭。</p> <p>1977～82 年間、奉天中学校の校長。</p> <p>1982 年、多数の入選を経て、大韓民国美術展覧会の招待作家になる。</p> <p>1993 年、全羅南道美術大展の審査委員長、大韓民国美術大展の審査委員。</p> <p>死後の 2010 年、光州市立美術館にて「혼을 담은 색의 화가 尹在珩」展が開催。(2010. 11. 30～2011. 2. 13)</p> <p>著述活動：1958～64 年間、『近代絵画史：流派와 作家와 作品』(5 版)</p> <p>1967～71 年間、文教部検定高校美術教科書を共著するなど、多数の中・高校の美術教科書</p>	『혼을 담은 색의 화가 尹在珩』展図録、光州市立美術館、2010 年。

					および美術教師用指導書を著述。	
1 1	林湖 임호 (本名：林 栞完、 日本名：林 日出夫)	1918～ 1974、 慶南 宜寧	入学年不詳 1943 年卒業	西洋画	大阪美術学校に在学中の 1942 年に第 7 回京都市美展に「晩春渚村」で入選、第 2 回大阪市展に入選。 1943 年、第 8 回京都市美展に「御殿山の春」で入選、第 3 回大阪市展に入選。幸畝洋画会展に出品。 1944 年、朝鮮美術展覧会に入選。 帰国後、馬山で教職生活を送る。1947 年、慶南美術研究会を結成。 韓国戦争の時に従軍画家団に参加。 1953 年、嶺南商業高校の美術教師に就き、釜山に定着。土壁会結成。 1963 年から漢城女子大学（現・京城大学校）に在職、後に美術学科長になる。 1964 年、釜山公報館にて第 5 回の個展。釜山市文化賞受賞。 その他、釜山市文化委員会美術分課委員長、慶南美展審査委員を務める。	『釜山の物故作家 3 林湖』展図録、釜山市立美術館、2010 年。
1 2	宋英玉 송영옥	1917 ～ 1999、 済州	1941 年入学 1944 年卒業	西洋画	日本名：宮本英義。11 歳の時に家族と共に渡日。 戦後も日本に残り、在日朝鮮人画家として終生まで活動。 1956～67 年、日本アンデパンダン展、自由美術家展に出品。 1975 年から東京居住。	윤범모「曾良圭와 宋英玉-在日画家의 民族意識과 分断祖国」『韓国近現代美術史学』 第 18 集、2007 年。
1 3	邊時志 변시지	1926～ 2013、 済州	入学年不詳 1945 年卒業	西洋画	日本名：宇城時志。1931 年、6 歳の時に父親と一緒に大阪に渡る。 1945 年、東京に行き、寺内万次郎に学ぶ。 1947 年、22 歳の時に光風会展と日展に入選。 1948 年、光風会展にて最年少最高賞受賞。 1949 年、東京銀座の資生堂で個展。 1957 年、帰国 1960 年、徐羅伐芸術大学（現・中央大学校芸術大学）美術科長。	고희찬「邊時志의 済州風情連作에 대한 研究」 檀国大学校教育大学院美術教育専攻 修士論文、1995 年。

					1975 年、済州大学校師範大学美術教育科の専任教授、済州に定着。	
1 4	梁寅玉 양인옥	1926 ～ 1999、 済州	1940 年代初め に在学	西洋画	帰国後に済州を去り、全羅南道の木浦と光州を中心に活動。 大韓民国美術展覧会に 12 回の入選と 4 回の特選。 湖南と呼ばれる全羅道の地域画壇で活動しながら、1961 年と 1981 年に故郷の済州で個展を開催。	「湖南画壇주름 잡던 済州出身 梁寅玉 再照明」『済州의 소리』2011 年 9 月 19 日。
1 5	キム・コ ク カン 김곡광	不詳	1940 年代初め に在学	西洋画	1942 年 5 月に大阪美術学校の庭園で尹在珩と一緒に撮られた写真が 尹在珩の作品集(1996. 10. 1～6. 於・ソウルギャラリー)に掲載されている。	『韓国美術記録保存所資料集』第 3 号 サムスン・リウム美術館、2004 年 12 月、80～81 頁。
1 6	キム・カ ン ナム 김광남	不詳、 咸北	1940 年代初め に在学	不詳	同じ時期に在学していたという尹在珩の証言があるが、その他に具体的な情報はまだ発見できていない。	

<表 4> 女子美術学校

* リストの全員、삼성(サムスン)・リウム美術館『韓国美術記録保存所資料集』第 3 号、2004 年（以下、保存所資料集第 3 号とする）から再引用したものである。韓国美術記録保存所が女子美と女子美同窓会韓国支部から直接提供して貰った留学生の名簿であるので正確度が高い（名簿 1～178 番は、女子美の最終修学者名簿と学籍簿写本による。179～196 番は、女子美同窓会韓国支部名簿による）。さらに同所は 2002 年から 2003 年間、出身者 7 名に対してインタビューを行った（サムスン・リウム美術館『韓国美術記録保存所資料集』第 2 号、2003 年に収録。以下、保存所資料集第 2 号とする）。以下の表は、その保存所資料集の資料に、新聞・雑誌から得た情報を多少加えたもの。

* 1900～1945 年間に修学した者は、計 196 名と推定。

	氏名	生没年 出生地	入学・卒業年	専攻	活動情報	情報出典 (保存所資料集第 3 号以外の出典)
1	花村節		1907 年 10 月入学	造花科 撰科高等科	1906 年 4 月に撰科造花普通科を卒業。	
2	羅蕙錫 나혜석	1896 ～ 1948、 水原	1913 年入学 1918 年卒業	西洋画科高 等師範科	1913 年、進明女子高校第 3 回卒業 1913 年に西洋画撰科普通科に入学、1915 年 11 月に 2 年生として再入学。 西洋画科高等師範科に 1916 年 4 月に入学し、1918 年 3 月に卒業。	保存所資料集第 2 号。
3	池恒淑 지향숙		1913 年入学 ～1914 年 1 月	?		
4	朴秋英 박추영		1913 年入学 ～1914 年 3 月	?		
5	金政震 김정진		1917 年入学 ～1917 年 6 月	刺繍科 撰科		
6	具順善 구순선		1917 年 9 月入学	日本画科撰 科		

7	李良善 이양선		1917 年 10 月入学～ 1918 年 4 月	刺繡科 撰科		
8	崔春景 최춘경		1917 年 10 月入学	刺繡科 撰科		
9	崔淑眞 최숙진		1918 年 5 月 ～1918 年 12 月	刺繡科 撰科		
10	朴贊喜 박찬희		1920 年 5 月入学 1920 年 10 月卒業	刺繡科 速成科		
11	鄭嬉魯 정희로		1920 年 9 月入学 1924 年卒業	刺繡科 撰科、高等 科、研究科	刺繡科撰科に 1920 年 9 月入学、1921 年 9 月卒業。 刺繡科撰科高等科に 1923 年 4 月入学、1923 年 7 月卒業。 刺繡科研究科に 1923 年 7 月入学、1924 年 3 月卒業。	
12	金雲英 김운영		1920 年 10 月入学～ 1921 年 4 月	西洋画科撰 科		
13	尹時善 윤시선		1921 年入学	西洋画科高 等科		
14	馬載慶 마재경		1922 年 4 月入学 ～1924 年 3 月	西洋画科撰 科	二つの記録がある。 西洋画科撰科に 1922 年 4 月入学し、1922 年 9 月まで修学。 同科撰科に 1923 年 3 月入学し、1924 年 3 月まで修学。	
15	崔熙卿 최희경		1921 年 9 月入学 1923 年卒業	刺繡科撰科		

16	張善禧 장선희	1893～ 1970、 平壤	1923 年入学 1925 年卒業	刺繡科撰科、 日本画科撰 科	刺繡科撰科に 1923 年 4 月に 2 年生として入学し、1924 年 4 月に卒業。 日本画科撰科に 1924 年 3 月に 3 年生として入学し、1925 年 3 月に卒業。 1914 年、ジョンシン（정신）女子高等学校第 6 回卒業。京畿女子高に編入、1915 年に卒業。 大韓民国愛国婦人会で活動し、1920～1922 年、刑務所で服役。 1963 年、大統領表彰。1990 年、建国勲章受賞。	保存所資料集第 2 号。 『万年花丘：張善禧 の 人生（만년꽃동산:장선희여사 일대기）』人物研究所、1985 年。
17	李淑鐘 이숙중	1904 1985 京城	1923 年入学 1926 年卒業	西洋画科高 等科	1923 年、淑明女子高の第 14 回卒業。 1926～1939 年、東京帝国大学美学科修了。	保存所資料集第 2 号。
18	金明華 김명화		1923 年入学 1927 年卒業	西洋画科高 等師範科	東京帝国大学美学部修了。	金炫淑「初期女性画家들의位相」 『月刊美術』1989 年 3 月号
19	朴興順 박흥순		1924 年 6 月入学 1926 年卒業	刺繡科 撰科		
20	文敬子 문경자		1924 年 9 月入学 1925 年 12 月卒業	刺繡科 撰科		
21	鄭然世 정연세		1925 年入学	日本画科撰 科		
22	尹時善 윤시선		1925 年入学 1928 年卒業	西洋画科高 等科	京畿女子高校卒業。	保存所資料集第 2 号。
23	羅祥允 나상운	1904～ 咸南	1925 入学 1927 年 9 月中退	西洋画科撰 科	東京美術学校出身の都相鳳の妻。 1923 年に渡日し、1 年ほどデッサンを学んでから入学。	金喆孝 「忘 れ ら れ た 近代女性美術史 の 復元(잊혀진

		洪原			男性モデルを木炭でデッサンして入学試験に受けたと記憶する。 1927 年、第 9 回朝鮮美展に《東京帝国大構内風景》が入選。	근대여성미술사의 복원)」 『月刊美術』 2003 年 4 月。
24	李順媛 이순원		1925 年入学 1927 年卒業			
25	李蘭伊 이난이		1925 年 6 月入学 ～1925 年 12 月	造花科 撰科		
26	白德秀 백덕수		1926 年 4 月入学 ～1927 年 10 月	西洋画科 高 等科		
27	朴在植 박재식		1926 年 4 月入学 ～1927 年 10 月	刺繡科 高等科		
28	梁龍星 양용성		1926 年 4 月入学 ～1926 年 11 月	刺繡科 高等科		
29	崔乙龍 최을용		1926 年 4 月 ～1927 年 9 月	刺繡科 撰科		
30	李正守 이정수	1907 1984	1926 年 4 月 ～1930 年 5 月	裁縫科 高等師範科	同窓会韓国支部の名簿には、高等科西洋画部とする。 1926 年、京畿女子高第 16 回卒業。	保存所資料集第 2 号 。
31	崔玉鎮 최옥진		1926 年 10 月入学 1927 年卒業	刺繡科 速成科		
32	李蕙英 이혜영		1926 年 10 月入学 1927 年卒業	刺繡科 速成科		

33	金順吉 김순길		1927 年入学 1930 年卒業	西洋画科 高等科		
34	朴桂心 박계심		1927 年入学 1930 年卒業	刺繡科 高等師範科		
35	尹貞植 윤정식		1927 年入学 1929 年卒業	刺繡科 高等科		
36	沈載淳 심재순		1927 年入学 1929 年卒業	刺繡科 高等科		
37	金然任 김연임		1927 年入学 1929 年卒業	刺繡科 高等科		
38	金春元 김춘원		1927 年入学 1929 年卒業	刺繡科 高等科		
39	金善娘 김선낭		1927 年入学 1929 年卒業	刺繡科 撰科		
40	朴小完 박소완		1927 年入学 ～1929 年 9 月	造花科 高等師範科		
41	尹貞旭 윤정옥		1928 年入学 1932 年卒業	日本画科 高等師範科	1931 年、尹連伊に改名。	
42	尹今守 윤금수		1928 年入学 1930 年卒業	2 年制専修科 刺繡部		

43	張田紋 장전문		1928 年入学 1930 年卒業	2 年制専修科 刺繍部		
44	朴奉伊 박봉이		1928 年入学 1930 年卒業	2 年制専修科 刺繍部		
45	吉恒淳 길항순		1928 年入学 ～1930 年 1 月	刺繍科 撰科		
46	安柱龍 안주용		1928 年 10 月 1930 年卒業	刺繍科 速成科、撰科	刺繍科速成科に、1928 年 10 月に入学し、1929 年 4 月に卒業。 刺繍科撰科に、1929 年 3 月に入学し、1930 年 3 月に卒業。	
47	曹廣丹 조광단		1928 年 10 月入学 1929 年卒業	編物科 速成科		
48	金小判 禮 김소판 례		1929 年入学 1932 年卒業	刺繍科 高等師範科	全南女子高校の刺繍教師。(柳忠姫の証言)	『月刊美術』2003 年 4 月号
49	鄭光吉 정광길		1929 年入学 1931 年卒業	2 年制専修科 刺繍部		
50	金玉振 김옥진		1929 年入学 ～1930 年 9 月	2 年制専修科 刺繍部		
51	李蓮玉 이연옥		1929 年入学 ～1929 年 10 月	2 年制専修科 刺繍部		

52	鄭然世 정연세		1929 年入学 ～1929 年 10 月	2 年制専修科 刺繡部	21 番の鄭然世と同一人物かも知れない。	
53	金奉女 김봉녀		1929 年入学 ～1929 年 11 月	刺繡科 高等 師範科		
54	金炯림 김형림		1929 年入学 ～1930 年 9 月	裁縫科 高等師範科		
55	全明子 전명자		1930 年入学 1933 年卒業	師範科 刺繡部	淑明女子大学校の学長を歴任。全ての作品を同大学博物館に寄贈。	
56	吳命用 오명용		1930 年入学 ～1931 年 3 月	高等科 日本画部		
57	李義行 이의행		1930 年入学 ～1931 年 2 月	2 年制専修科 刺繡部		
58	廉音全 염음전		1930 年入学 ～1931 年 2 月	2 年制専修科 刺繡部		
59	尹命福 윤명복		1930 年入学 1934 年卒業	師範科 刺繡部		
60	朴呂玉 박여옥		1931 年入学 1934 年卒業	師範科 刺繡部		
61	張順麟 장순린		1931 年入学 1934 年卒業	師範科 刺繡部		

62	張玉順 장옥순		1931 年入学 1934 年卒業	師範科 刺繡部		
63	李順義 이순의		1931 年入学 1934 年卒業	師範科 刺繡部		
64	洪寅實 홍인실		1931 年入学 1934 年卒業	師範科 刺繡部		
65	趙順姬 조순희		1931 年入学 1932 年卒業	1 年制專修科 刺繡部		
66	李相順 이상순		1931 年入学 1932 年卒業	1 年制專修科 刺繡部		
67	洪龍姬 홍용희		1931 年入学 ～1931 年 9 月	1 年制專修科 刺繡部		
68	李金女 이금녀		1931 年入学 ～1932 年 9 月	1 年制專修科 刺繡部		
69	崔午童 최오동		1931 年入学	1 年制專修科 刺繡部		
70	高貞煜 고정옥		1931 年入学 ～1931 年 6 月	裁縫科 高等師範科		
71	崔順學 최순학	忠南	1932 年入学 1935 年卒業	師範科 刺繡部		「東京其他各地留學生 今春卒業生氏名」『東亞日報』1935

						年 1 月 22 日。
72	姜末順 강말순		1932 年入学 1933 年卒業	1 年制専修科 刺繍部	1932 年 4 月に師範科刺繍部に入学してから転科。	
73	李甲郷 이갑향	1914 서울	1933 年入学 1936 年卒業	高等科 西洋画部	1933 年、淑明女子高第 24 回卒業。	
74	劉鳳任 유봉임		1933 年入学 1936 年卒業	師範科 刺繍部		「新春에校門을 나설 새朝鮮의 새役軍들」『東亞日報』1936 年 1 月 12 日。
75	崔福女 최복녀		1933 年入学 1936 年卒業	師範科 刺繍部	咸興ヨンセン（영생）女子高の教師として勤務。（李仁福の証言）	『月刊美術』2003 年 4 月号
76	吉元姬 길원희		1933 年入学 1936 年卒業	師範科 刺繍部		「新春에校門을 나설 새朝鮮의 새役軍들」『東亞日報』1936 年 1 月 12 日。
77	吉英德 길영덕		1933 年入学 1936 年卒業	師範科 刺繍部		
78	金壬年 김임년		1933 年入学 1936 年卒業	師範科 刺繍部	千鏡子の全南女子高時代に 教師 であり、千鏡子に留学を勧める。	保存所資料集第 2 号、15 頁。
79	金貴仁 김귀인		1933 年入学 1936 年卒業	師範科 刺繍部		「新春에校門을 나설 새朝鮮의 새役軍들」『東亞日報』1936 年 1 月 12 日。
80	俞貞順 유정순		1933 年入学 1936 年卒業	師範科 刺繍部		

81	孔命吉 공명길		1933 年入学 ～1936 年 5 月	師範科 刺繍部		
82	高漢甲 고한갑		1934 年入学 1935 年卒業	1 年制専修科 刺繍部		
83	金泰淑 김태숙		1934 年入学 1935 年卒業	1 年制専修科 刺繍部		
84	韓瑛哲 한영철		1934 年入学 1935 年卒業	1 年制専修科 刺繍部		
85	朴乙福 박을복	1915～ 開城	1934 年入学 1937 年卒業	師範科 刺繍部	1933 年、好壽敦女子高を卒業。 1934 年、梨花女子専門学校英文科予科を 1 年修了。 現在、ソウルに朴乙福刺繍博物館を運営している（2002 年会館）。	保存所資料集第 2 号。
86	朴舜敬 박순경	1914 咸南 咸興	1934 年入学 1937 年卒業	師範科 刺繍部	1933 年、京畿女子高第 23 回卒業。 1934 年、京都女子専門学校英文科予科修了。 帰国後、咸南女子高で 2 年間教鞭をとる。	保存所資料集第 2 号。 『月刊美術』2003 年 4 月号
87	朴貴祚 박귀조		1934 年入学 1937 年卒業	師範科 刺繍部		
88	趙貞鎬 조정호		1934 年入学 1937 年卒業	師範科 刺繍部		
89	劉永禮 류영례		1934 年入学 1937 年卒業	師範科 刺繍部		

90	羅サ均 나사균	1913 水原	1934 年入学 1937 年卒業	師範科 刺繍部	1934 年、同徳女子高卒業。 1971 年、第 3 回申師任堂賞を受賞。	保存所資料集第 2 号。
91	石春福 석춘복		1934 年入学 1937 年卒業	師範科 刺繍部		
92	洪鐘順 홍종순		1934 年 10 月入学～ 1935 年卒業	高等科 西洋画部	1932 年 4 月に師範科西洋画部に入学してから転科。	
93	尹鳳淑 윤봉숙		1935 年入学 1938 年卒業	師範科 刺繍部		
94	朴有分 박유분		1935 年入学 1938 年卒業	師範科 刺繍部		
95	劉義順 류의순		1935 年入学 1938 年卒業	師範科 刺繍部		
96	李正子 이정자		1935 年入学 1938 年卒業	師範科 刺繍部		
97	金生玉 김생옥		1935 年入学 1938 年卒業	師範科 刺繍部		
98	李福祿 이복록		1935 年入学 ～1937 年 2 月	2 年制専修科 刺繍部		
99	咸順姬 함순희		1935 年入学 1938 年卒業	高等科 西洋画部		

100	洪寅守 홍인수		1935 年 5 月入学 1936 年卒業	高等科 西洋画部	1933 年 4 月に師範科西洋画部に入学してから転科。	
101	李仁福 이인복	1914 2003	1935 年 5 月入学 1936 年卒業	高等科 西洋画部	1933 年 4 月に師範科西洋画部に入学してから転科。 1933 年、 咸興女子高を卒業。 女子高の時代に女子美出身の日本人の美術先生に憧れ、留学を決心する。 帰国後、ヨンセン（영생）女子高の美術教師。	保存所資料集第 2 号 。 『月刊美術』2003 年 4 月号
102	金玉相 김옥상		1936 年 1 月入学 1936 年卒業	2 年制専修科 刺繍部	2 年生に入学。	
103	李仁浩 이인호		1936 年 1 月入学 1936 年 4 月卒業	1 年制専修科 刺繍部	1935 年 4 月に師範科刺繍部に入学してから転科。	
104	李張鳳 이장봉	1917	1936 年入学 1939 年卒業	師範科 刺繍部		
105	元英禮 원영례		1936 年入学 1939 年卒業	師範科 刺繍部		
106	千己生 천기생		1936 年入学 1939 年卒業	師範科 刺繍部		
107	金貞賢 김정현		1936 年入学 1938 年卒業	2 年制専修科 刺繍部		
108	張東仁 장동인		1936 年入学 1937 年卒業	1 年制専修科 刺繍部		

109	柳忠姬 류충희	1918~	1936 年入学 1937 年卒業	1 年制専修科 刺繍部	全南女子高の時代、女子美出身の刺繍科目の教師・金小判禮に憧れ、女子美の留学を決心する。	保存所資料集第 2 号。
110	高春善 고춘선		1936 年入学 1937 年卒業	1 年制専修科 刺繍部		
111	安永植 안영식		1936 年入学 1937 年卒業	1 年制専修科 刺繍部		
112	金慶順 김경순		1936 年入学 1937 年卒業	1 年制専修科 刺繍部		
113	許聖福 허성복		1936 年入学 1937 年卒業	専修科 洋裁部		
114	朴桂順 박계순		1936 年入学 ～1936 年 9 月	1 年制専修科 刺繍部		
115	韓乙祿 한을록		1936 年入学 ～1938 年 3 月	師範科 刺繍部	転科。 師範科刺繍部に、1936 年 4 月に入学し、1937 年 10 月に卒業。 2 年制専修科刺繍部に、1937 年 10 月に入学し、1938 年 3 月まで修学。	
116	咸蓮義 함련의		1936 年入学 ～1936 年 5 月	師範科 刺繍部		
117	尹完姬 윤완희		1937 年入学 1940 年卒業	高等科 西洋画部		
118	朴丁玉		1937 年入学	師範科		

	박정옥		1940 年卒業	刺繍部		
119	元貴淑 원귀숙		1937 年入学 1940 年卒業	師範科 刺繍部		
120	尹政子 윤정자	1912～ 慶北 令德	1937 年入学 1941 年卒業	師範科 刺繍部	日本名：坂平岳只 1931 年、慶南女子高第 1 回卒業。 大邱で 教育 活動。	
121	鄭溫女 정은녀	1917～ 江原道 平康	1938 年入学 1941 年卒業	高等科 西洋画部	1936 年、羅南女子高卒業。 1943 年、日本大学美術部研究科卒業。 北朝鮮で活動。	保存所資料集第 2 号。
122	金英淑 김영숙		1938 年入学 1941 年卒業	師範科 刺繍部		
123	金鶴基 김학기		1938 年入学 1941 年卒業	師範科 刺繍部		
124	李奇玉 이기옥(李清美)		1938 年入学 1941 年卒業	師範科 刺繍部		
125	李福鎭 이복진		1938 年入学 1941 年卒業	師範科 刺繍部		
126	金分南 김분남		1938 年入学 1941 年卒業	師範科 裁縫部		

127	卞鎬淑 변호숙		1938 年入学 1941 年 12 月卒業	師範科日本 画部		
128	黃壽姬 황수희		1938 年 10 月入学 1939 年卒業	2 年制専修科 刺繍部	1937 年 4 月に、師範科刺繍部に入学してから転科。	
129	俞春景 유춘경		1938 年 10 月入学 1939 年卒業	2 年制専修科 刺繍部	1937 年 4 月に、師範科刺繍部に入学してから転科。	
130	金蓮榮 김연영		1939 年入学 1941 年 12 月卒業	高等科 西洋画部		
131	朴松月 박송월		1939 年入学 1941 年 12 月卒業	高等科 西洋画部	1937 年、東羅南女子高卒業。 1939 年 4 月に、師範科西洋画部に入学してから転科。	保存所資料集第 2 号。
132	이산옥 李珊玉	1922 ~ 咸南 咸興	1939 年入学 1941 年 12 月卒業	師範科 刺繍部	日本名：岩本珊玉。1939 年、咸南女子高卒業。 帰国後、咸南女子高で教師。（박순경의 증언） 1993 年、宮中遺物展示館に作品寄贈。	保存所資料集第 2 号。 『月刊美術』2003 年 4 月号。
133	徐萬福 서만복		1939 年入学 1941 年 12 月卒業	師範科 刺繍部		
134	朴成泰 박성태		1939 年入学 1941 年 12 月卒業	師範科 刺繍部		
135	崔銀金 최은금		1939 年入学	2 年制専修科 刺繍部		
136	金松葉		1940 年入学	高等科	北朝鮮に渡る。	保存所資料集第 2 号。

	김송엽		1942 年 9 月 卒業	西洋画部		
137	金玉實 김옥실		1940 年 入学 1942 年 9 月 卒業	師範科 刺繡部		
138	鄭致英 정치영		1940 年 入学 1942 年 9 月 卒業	師範科 刺繡部		
139	劉福信 류복신		1940 年 入学 1942 年 9 月 卒業	師範科 刺繡部		
140	張雄實 장웅실		1940 年 入学 1942 年 9 月 卒業	師範科 刺繡部		
141	朱順穆 주순목		1940 年 入学 1942 年 9 月 卒業	師範科 刺繡部		
142	金觀白 김관백		1940 年 入学 1942 年 9 月 卒業	師範科 刺繡部		
143	朴峽賢 박래현		1940 年 入学 1943 年 9 月 卒業	師範科 日本画部		
144	李義全 이의전		1940 年 入学 ～1942 年 2 月	師範科 西洋画部		
145	李瓊蘭 이경란		1940 年 入学 ～1942 年 6 月	師範科 西洋画部		
146	金仁實		1940 年 入学	2 年制専修科		

	김인실		1942 年卒業	刺繍部		
147	黃銀順 황은순		1940 年入学 1941 年卒業	1 年制専修科 刺繍部	卒業後、1941 年 3 月に再入学した記録がある。学籍簿写本の専攻欄には日本画部と西洋画部が 2 つとも記録されている。	
148	韓然和 한연화		1940 年入学 ～1942 年 3 月	日 本 画 部 と 西洋画部		
149	朴淑子 박숙자		1940 年入学 ～1942 年 1 月	2 年制専修科 刺繍部		
150	劉南鉉 류남현		1940 年入学	2 年制専修科 刺繍部		
151	安明道 안명도		1940 年入学	2 年制専修科 刺繍部		
152	崔參善 최삼선		1940 年入学	2 年制専修科 刺繍部		
153	金四煥 김사환		1940 年入学	2 年制専修科 刺繍部		
154	金三順 김삼순		1940 年入学	2 年制専修科 刺繍部		
155	金瑟 김슬		1940 年入学 ～1942 年	2 年制専修科 刺繍部	2 年制専修科刺繍部に、1940 年 4 月に入学し、1941 年 4 月まで修学。 1942 年 4 月に、刺繍部と造花部に入学記録がある。	
156	吳寅實		1940 年入学	家庭科		

	오인실					
157	玉九永 옥구영		1940 年入学	家庭科		
158	千鏡子 천경자		1941 年入学 1943 年 9 月卒業	高等科 日本画部		
159	李昌宣 이창선		1941 年入学 1943 年 9 月卒業	師範科 刺繍部		
160	松 村 静 枝		1941 年入学 1943 年 9 月卒業	師範科 刺繍部		
161	金 山 瑠 美		1941 年入学 ～1941 年 9 月	日本画部と 西洋画部		
162	武 本 尚 子		1941 年入学 ～1942 年 3 月	師範科 刺繍部	師範科刺繍部に 1941 年 4 月に入学し、1941 年 9 月に卒業。 1 年制専修科刺繍部に転科し、1942 年 3 月まで修学。	
163	鄭 村 明 球		1941 年入学 ～1941 年 11 月	刺繍部と造 花部		
164	梅 田 圭 淑		1941 年入学 ～1942 年 1 月	刺繍部と造 花部		
165	金玉振 김옥진		1942 年入学 1944 年 9 月卒業	師範科 刺繍部		
166	神 農 慶		1942 年入学	師範科		

	枝		1944 年 9 月 卒業	刺繍部		
167	高貞吉 고정길		1942 年入学 1944 年 9 月 卒業	師範科 刺繍部		
168	金 井 由 美子		1942 年入学 ～1944 年 5 月	師範科 刺繍部		
169	大 幸 行 子		1942 年入学	師範科 刺繍部		
170	新 井 蓮 子		1942 年入学 ～1943 年 3 月	2 年制専修科 刺繍部		
171	大 越 聆 子		1942 年入学 ～1944 年 1 月	家庭科		
172	金 澤 壽 恵子		1943 年入学 ～1944 年卒業	洋裁専修科		
173	金 澤 悦 子		1943 年入学 ～1944 年卒業	洋裁専修科		
174	金 山 鐘 恵		1943 年入学	洋裁専修科		
175	野 木 美 津江		1943 年入学	刺繍部		
176	全利壽			師範科		

	전리수			刺繍部		
177	李基妍 이기연			師範科 刺繍部		
178	朴信烈 박신열			師範科 刺繍部		
179	白南舜 백남순	1904～ 1994、 京城	1923 年入学	西洋画	画家・任用璉(1901～?)の婦人。	
180	李鳳鳴 이봉명		1923 年まで修学	刺繍科 撰科	同窓会韓国支部の名簿にある。	
181	林寶玉 임보옥		1923 年まで修学	刺繍科 撰科	同窓会韓国支部の名簿にある。	
182	張全蓮 장전련		1925 年まで修学	刺繍科 撰科	同窓会韓国支部の名簿にある。	
183	李薰英 이훈영		1927 年まで修学	刺繍科 速成科	同窓会韓国支部の名簿にある。	
184	海老原 幸子 리혜경		1931 年入学 1934 年	日本画	茨城県で生まれ、7 歳から日本人の家庭で育つ。	リ・ジェヒョン (리재현) 『朝鮮歴 代美術家編覧』平壤：文学芸術総合 出版社、1999 年。
185	李順美		1934 年まで修学	刺繍科	同窓会韓国支部の名簿にある。	

	이순미			師範科		
186	명정순 命貞順		1936 年まで修学	刺繍科 師範科	同窓会韓国支部の名簿にある。	
187	金 ヨ ン チュン 김영춘		1939 年まで修学	高等科 西洋画部	同窓会韓国支部の名簿にある。	
188	吳貞子 오정자			西洋画		金炫淑「初期女流画家들의 位相」『月刊美術』1989 年 3 月
189	尹貞淳 윤정순			西洋画	在東京美術家協会展	
190	이노순		1942 年まで修学	1 年制専修科 刺繍部	同窓会韓国支部の名簿にある。	
191	김옥실		1942 年卒業	刺繍	創氏改名により、名簿から漏れたようである。北朝鮮に渡る。 (李珊玉の証言)	
192	李福任 이복임		1944 年まで修学	師範科 刺繍部	約 1 年間通う (本人と李珊玉の証言)	
193	전영화		1944 年まで修学	刺繍		金炫淑「初期女流画家들의 位相」『月刊美術』1989 年 3 月
194	鄭一鎬 정일호		1944 年まで修学	刺繍		

195	孔明吉 공명길		1944 年まで修学	刺繍	刺繍科 1 年後に中退し、相模大学（公立女子専門学校家事科）に行く（李珊玉の証言）。	
196	안계순 安桂順		1944 年まで修学	刺繍		

<表 5> 帝国美術学校

＊全ての情報は、韓国近現代美術記録研究会と武蔵野美術大学の共同研究で行われた調査結果による。 韓国近現代美術記録研究会編『帝国美術学校と朝鮮人留学生たち (제국미술학교와 조선인유학생들) : 1929-1945』ソウル：ヌンビッ (눈빛)、2004 年)

	氏名	生没年、 出生地	入学・ 卒業年	専攻	活動情報
1	金宗燦 김종찬		1931 年入学 中退	西洋画科	1932～1935 年、本科西洋画科に在学していた記録があるが、1936 年、文化学院に転学。 以後の情報は、文化学院欄を参照。
2	林聖恩 임성은	1911～ 黄海道 載寧郡	1931 年入学 1936 年卒業	西洋画科	川端画学校で修学してから入学。
3	申鴻休 신흥휴		1931 年入学 中退	西洋画科	
4	韓相璘 한상린	江原道	1931 年入学 中退	西洋画科	
5	具宗書 구종서	1912～? 忠南 公州郡	1933 年入学 1938 年卒業	西洋画科	1931 年、朝満中等美展に《風景》が入賞。第 10 回朝鮮美展に入選。 1938～1940 年、第 1・2・3 回の在東京美術協会展に参加。 1940 年、第 19 回朝鮮美展に入選。
6	金源(珍) 김원(진)	1912 ～ 1994 平南 大同郡	1933 年入学 1938 年卒業	西洋画科	日本名：宮川原一。1934 年に「金源」に改名。 1931 年、第 10 回朝鮮美展に入選。 1932 年、平壤スンシル中学校を卒業後、川端画学校で 1 年間修学。 1936～1940 年、第 15・16・17・18・19・21・23 回朝鮮美展に入選。 1938～1941 年、第 1・2・3・4 回在東京美術協会展に出品。 1938～1945 年、咸興ヨンセン中学校で美術教師。 戦後、西門女子中学校で美術教師。 1955 年、白牛会（戦前の在東京美術協会の後身）創立時、会長に選出。

					<p>1955～1965 年、白牛会に出品。</p> <p>1956～1976 年、弘益大学校美術大学教授および学長歴任。</p> <p>1957～1981 年、国展の推薦作家、招待作家、審査委員。</p>
7	金(學)俊 김(학)준	1911～? 京城	1933 年入学 1938 年卒業	西洋画科	<p>1938～1943 年、第 1・2・3・6 回の在東京美術協会展に参加。</p> <p>1941～1943 年、第 1・2・3 回の新美術家協会展に参加。</p>
8	李快大 이쾌대	1913 ～ 1965 京城	1933 年入学 1938 年卒業	西洋画科	<p>1928 年、徽文高等普通学校在学中に、東京美術学校出身の張勃が美術教師であった。</p> <p>1932 年、第 11 回朝鮮美展に入選。</p> <p>1938～1940 年、第 1・2・3 回白友会展に参加。</p> <p>1938～1940 年、第 25・26・27 回二科展に入選。</p> <p>1946 年、朝鮮美術同盟の西洋画部の委員長。</p> <p>1953 年、北朝鮮に渡る。</p>
9	黃憲永 황헌영	1911 ～ 1995 平壤	1933 年入学 1938 年卒業	西洋画科	<p>1932、1939 年、朝鮮美展に入選。</p> <p>1940 年、二科展に入選。</p> <p>戦後、北朝鮮美術同盟の副委員長。</p>
10	高錫 고석	1913～ 1940 京畿道 高陽郡	1934 年入学 1939 年卒業	第二部 西洋画科	<p>1931 年、第 10 回朝鮮美展に入選し、第 11 回・17 回・18 回・19 回に入選。</p> <p>1937 年、二科展に《牛》が入選。</p> <p>1938 年、第 1 回在東京美術協会展に参加、翌年の第 2 回展にも参加。</p> <p>1940 年、死亡。9 月の第 3 回在東京美術協会展にて遺作展が開かれる。</p>
11	金晩炯 김만형	1916 ～ 1984 京畿道 開城	1934 年入学 1941 年卒業	西洋画科	<p>1938 年に退学願い提出し、1940 年に再入学。</p> <p>1937～1943 年、第 16・18・19・20・21・22 回の朝鮮美展に出品。</p> <p>1939～1940 年、第 9・10 回の独立美術協会展に出品。</p> <p>1938～1943 年、第 1～6 回の在東京美術協会展に参加。</p> <p>1940 年、第 19 回朝鮮美展に特選。</p> <p>1946 年、朝鮮美術同盟の書記長として活動したが、1948 年頃に転向し、第 1 回国展に参加。</p> <p>朝鮮戦争中に朝鮮美術家同盟に再び参加し、北朝鮮に行く。</p>

					1958 年、朝鮮美術家同盟油絵分科の指導員として活動。
12	林達三 임달삼		1934 年入学 中退	不明	
13	梁建勳 양건훈		1934 年入学 中退	西洋画科	
14	梁學濟 양학제	1915～ 平北 寧邊郡	1934 年入学 1940 年卒業	工芸図案科	1938 年、第 1 回在東京美術協会展に参加。
15	金斗煥 김두환	1913 ～ 1994 忠南 禮山郡	1935 年入学 1940 年卒業	西洋画科	日本名：金子斗煥（1942 年に改名） 川端画学校で修学。 1938、1940 年、1943 年、第 1・3・6 回の在東京美術協会展に参加。 1941 年、第 28 回二科展に入選。 1942 年、半島美術展覧会に「金子斗煥」の名で出品。 戦後、第 1・2・3・6・7・8 回の白友会展に参加。
16	김태삼 金台三		1935 年入学 1937 年中退	西洋画科	2 年で中退。
17	金學洙 김학수	1918～ 黃海道 鳳山郡	1935 年入学 1940 年卒業	西洋画科	1943 年、第 22 回朝鮮美展の東洋画部分に入選。 1955～1963 年、国展に 8 回入選。 1970 年、同徳女子大学校絵画科教授。 1983～1985 年、第 2・4 回大韓民国美術大展の審査委員。
18	李仲燮 이중섭	1916 ～ 1956 咸南元山	1935 年入学 1937 年中退	西洋画科	1 年で中退し、文化学院に入学。以後の情報は、文化学院欄を参照。
19	李燦永 이찬영		1935 年入学 中退	西洋画科	入学者の名簿に名前あり。学籍簿は不在。 1943 年、第 6 回在東京美術協会展に参加。

20	尹仲植 윤중식	1914～ 平壤	1935 年入学 1940 年卒業	西洋画科	1931～1933 年、第 10・11・12 回朝鮮美展で入選。 1938～1940 年、第 1・3 回在東京美術協会展に参加。 1942 年、第 21 回朝鮮美展に入選。 1953 年、第 2 回国展で特選。 1970～1977 年、弘益大学校美術大学教授。
21	李起雄 이기웅		1935 年入学 1936 年中退	西洋画科	1 年で中退。
22	李大林 이대림	1909 ～ 咸興	1935 年入学 1938 年卒業	師範科	1932 年、第 11 回朝鮮美展で入選。 川端画学校で修学。
23	韓仲根 한중근	京城	1935 年入学 1937 年中退	第二部 西洋画科	2 年 6 ヶ月で中退。 1930、1933、1934 年、第 9・12・13 回朝鮮美展に入選。
24	黃樂仁 황락인	1915～ 忠北槐山	1935 年入学 1938 年卒業	師範科	
25	金在奭 김재석	1916 ～ 1987 忠南 公州	1936 年入学 1941 年卒業	西洋画科/ 図案科	1937 年、工芸図案科に転科。 1939 年、第 18 回朝鮮美展工芸部分に《テーブルセンタ》が入選。その後、入選と特選を重ねる。 1960～1967 年、ソラボル芸術大学の工芸科主任教授。
26	李相敦 이상돈	1914～ 釜山	1936 年入学 1938 年中退	西洋画科	1932 年、第 11 回朝鮮美展で入選。 入学前に、川端画学校で修学。
27	朱載慶 주재경 (朱慶)	1905 ～ 1979 京畿道 高陽郡	1936 年入学 1941 年卒業	西洋画科	1928 年、中央高等普通学校を卒業し、川端画学校で 4 年間修学。 1935 年、白牛会（1935～1943）に参加、会長歴任。1937 年以後に在東京美術協会に改称。 1939～1942 年、第 18・19・20・21 回朝鮮美展に入選。 1954 年、弘益大学校美術学部教授。 1962～1971 年、韓国美術協会の慶北支部長。 1974 年、国展の推薦作家。

28	安基豊 안기풍	1914～ 平南 安州邑	1936 年入学 1937 年中退	西洋画科	1937 年、文化学院に転科。 以後の情報は文化学院欄を参照。
29	崔載徳 최재덕	1916～ 京城	1936 年入学 1936 年中退	西洋画科	2 ヶ月で中退し、太平洋美術学校に転校。 以後の情報は、太平洋美術学校欄を参照。
30	羅燦根 라찬근	1919～ 1993 黄海道 黄浦郡	1937 年入学 中退	西洋画科/ 師範科	日本名：新本燦根，岡本英雄，岡本秀雄 1930 年、平壤師範学校卒業 1937 年、第 16 回朝鮮美展で入選。 戦後、平壤美術大学絵画学部長。
31	李性太 이성태	1915 ～ 京城	1937 年入学 卒業	彫刻科	
32	李正揆 이정규	1916 ～ 慶南馬山	1937 年入学 1937 年中退	西洋画科	日本名：李林 4 ヶ月で中退。
33	張摩西 장마서	1917～ 咸南元山	1937 年入学 1937 年中退	工芸図案科	5 ヶ月で中退。
34	鄭寛徹 정관철	1916 ～ 1983 平壤	1937 年入学 1937 年中退	西洋画科	4 ヶ月で中退し、東京美術学校に入学。 以後の情報は、東京美術学校欄を参照。
35	朴俊煥 박준환	1919～？ 黄海道 延白	1937 年入学 1937 年中退	西洋画科	1937 年 9 月に入学するが、同年 12 月中退（3 ヶ月）
36	洪逸杓 홍일표	1915～ 京城	1937 年入学 1941 年卒業	西洋画科	1935～1936、書画協会展に出品。 1935、1938、在東京美術協会展に参加。 1938 年、朝鮮美展に入選、1940 年、第 10 回独立展に入選。 1943 年、新美術家協会展に参加。

37	강창수 姜昌秀	1919～? 忠南 牙山郡	1938 年入学 1938 年中退	師範科	4 月に入学し、同年の 8 月中退。(4 ヶ月)
38	김병철 金炳哲	1917～? 平壤	1938 年入学 1939 年中退	第二部 西洋画科	1 年で中退。 1939 年、第 2 回在東京美術協会展に参加。
39	金鍾植 김중식	1918 ～ 1988 釜山	1938 年入学 1942 年卒業	西洋画科	1953～1984 年、釜山美協会長および文化賞審査委員。 1968～1984 年、東亜大教授。 1975～1983 年、釜山美展の招待作家および審査委員。
40	金鍾實 김중실	1915～? 開城	1938 年入学 1943 年卒業	西洋画科	日本名：金宮秀夫
41	金鍾淵 김종연	1912～? 京城	1938 年入学 1941 年中退	別科 西洋画科/ 師範科	1938 年 4 月に師範科へ転科。
42	金鍾夏 김종하	1918～ 2011 京城	1938 年入学 1941 年卒業	西洋画科/ 師範科	1933～1936 年、川端画学校で修学。 1935 年、第 25 回光風会展に入選。 1938 年に入学し、翌年に師範科へ転科。 1943～1946 年、師範学校の美術教師。 1956～1958 年、パリ留学。 1968～1981 年、国展の推薦作家、招待作家、審査委員。
43	金昌億 김창억	1920 ～ 1997 京城	1938 年入学 1942 年卒業	西洋画科	1942 年 9 月に西洋画科を卒業してから、10 月に別科彫刻科に入学するが、1944 年中退。 1943 年、独立展に出品。1945 年、新興美術協会展に参加。 1954～1963 年、京畿女子高等学校の美術教師。 1959 年、個展（韓国国立図書館画廊） 1962～1973 年、中央大学校師範大学講師。 1966～1987 年、弘益大学校美術大学教授。

44	金虎俊 김호준	1918～? 京城	1938 年入学 1939 年中退	図案工芸科	1 年で中退。
45	文在惠 문재덕	1918～? 全南 木浦	1938 年入学 1942 年中退	図案工芸科 / 西洋画科	図案科に入学してから 1939 年に西洋画科へ転科するが、1942 年 1 月に中退。 1938～1939 年、第 17・18 回朝鮮美展工芸部入選。 1940 年、第 19 回朝鮮美展ん西洋画部に入選。 1939～1940 年、第 2・3 回在東京美術協会展に参加。
46	林炳輝 임병휘		1938 年入学 1938 年中退	日本画科	1 ヶ月で中退。
47	張喜玉 장희옥	1919 ～ 濟州島	1938 年入学 1942 年中退	第二部 日本画科	
48	朴振鎬 박진호	1921～? 全北全州	1938 年入学 1943 年卒業	第二部 西洋画科	1940 年、第 3 回在東京美術協会展に参加。
49	徐康軒 서강헌	1918～? 咸南 高原郡	1938 年入学 1942 年卒業	西洋画科	日本名:利川康軒 1939 年、第 2 回在東京美術協会展に参加。 1943 年、第 6 回在東京美術協会展に参加。
50	尹子善 윤자선	1918～? 京城	1938 年入学 1942 年卒業	西洋画科	日本名:茂松健 1939～1940 年、第 2・3 回白牛会展に参加。 1940 年、第 19 回朝鮮美展に入選。 1943 年、第 3 回新美術家協会展に出品。 戦後、北朝鮮に行き、平壤建設大学美術教員。
51	崔桐煥 최동환	1916～ 全北 雲峰面	1938 年入学 1939 年中退	彫刻科	1 年で中退。 1938 年、朝鮮美展に入選。
52	黄廉秀 황림수	1917～ 平壤	1938 年入学 1942 年卒業	西洋画科	日本名:義原晃一 1934、1935、1942 年、朝鮮美展に入選。

53	李相夔 이상기	1920～ 馬山	1939 年入学 1943 年卒業	西洋画科	
54	李壽億 이수억	1918 ～ 1990 咸南 定平郡	1939 年入学 1943 年卒業	西洋画科	1950 年、朝鮮戦争の時に南の方（韓国）に渡る。 1951 年、従軍画家団展に出品し、参謀総長賞受賞。 1962 年、江原文化賞受賞。 1970 年、木友会の理事。 1975 年、国展の招待作家、1980 年には審査委員になる。
55	李惟台 이윤태	1916 ～ 1999 京城	1939 年入学 1940 年中退	日本画科	1 年で中退。 1937～1944 年、朝鮮美展で入選、特選、無監査。 1947～1979 年、梨花女子大学校美術科教授。 国展の推薦作家、招待作家、審査委員、運営委員。 1980 年、芸術院賞受賞。
56	李濬燮 이준섭	1920～ 慶南 昌原郡	1939 年入学 1940 年中退	西洋画科	1 年で中退。
57	李八燦 이팔찬	1919 ～ 1962 忠南 公州郡	1939 年入学 1943 年卒業	日本画科	日本名：牧山八燦 1940～1943 年、第 19～22 回朝鮮美展に出品
58	李鎬煉 이호련	1919～ 平南 鎭南浦	1939 年入学 1941 年中退	西洋画科	日本名：松山京仙 2 年で中退。
59	林完圭 임완규	1918～ 2003 京城	1939 年入学 1943 年卒業	西洋画科	1943 年、第 6 回在東京美術協会展に参加。 国展の推薦作家、招待作家、審査委員。 1967～1989 年、弘益大学校教授および絵画科長

60	張旭鎭 장옥진	1917～ 1990 忠南 燕岐郡	1939 年入学 1944 年卒業	西洋画科	1940 年、1943 年、第 19・22 回朝鮮美展で入選。 1949 年、第 2 回新写真派展に参加。 1954～1960 年、ソウル大学校美術大学教授。
61	張昌鎭 장창진		1939 年入学 中退	学科不詳	
62	鄭純謨 정순모	1918～ 江原道 黄城郡	1939 年入学 1943 年卒業	工芸図案科	日本名:城山金治
63	千才亨 천재형	1920～ 咸北 會寧郡	1939 年入学 中退	西洋画科	
64	朴勝龜 박승구	1919～? 京城	1939 年入学 1939 年中退	彫刻科	1939 年 12 月に中退（約 8 ヶ月で中退） 1935 年、東京美術学校出身の金復真の美術研究所で修学。 1940 年、東京美術学校彫刻科に入学、1944 年、卒業。 戦後、京畿中学校などで美術教師。朝鮮戦争の時に北朝鮮に行く。
65	徐相允 서상윤	1919～? 京城	1939 年入学 1943 年卒業	第二部 西洋画科	1943 年、第 6 回在東京美術協会展に参加。
66	石壽星 석수성	1919～? 咸北 鏡城郡	1939 年入学 1943 年卒業	西洋画科	日本名:石川照夫
67	孫東鎭 손동진	1921～ 慶北慶州	1939 年入学 中退	西洋画科	日本名：大岸東峰 中退年度不詳、1952～1954 年、東京芸術大学および同大学院を卒業。 1943～1944 年、第 22・23 回朝鮮美展入選。 1959 年、パリ国立美術大学修了。

					1959～1981 年、国展の招待作家、審査委員。 1960～1977 年、ソウル大、梨花女子大学、世宗大教授。
68	宋惠秀 송혜수	1913～ 2005 平壤	1939 年入学 1943 年卒業	西洋画科	1939～1940 年、第 2・3 回在東京美術協会展に参加。 1941 年、第 11 回独立展に《牛》が入選。 1942～1944 年、自由美術家協会展に参加。
69	梁柱鎬 양주호		1939 年入学 中退	学科不詳	
70	姜承華 강승화	1918～? 平北 楚山郡	1940 年入学 1943 年中退	西洋画科	川端画学校で 2 年間修学。 3 年で中退。
71	郭興模 곽흥모	1921 ～ 1988 黄海道 鳳山郡	1940 年入学 1944 年中退	工芸図案科	日本名：大谷興模（1940 年 9 月に改名） 1940 年、朝鮮美展に《井戸辺》入選。第 3 回在東京美術協会展に参加。翌年の第 4 回にも参加。 1944 年に中退後、帰郷。戦後、平壤美術大学の図案学部長になる。 1954 年、中央美術製作所の装飾部長。 著書『図案の基本』（1962）の他、多数の論説がある。
72	金宗鉉 김종현	1921～? 忠北 清州郡	1940 年入学 1942 年中退	西洋画科	
73	文鈺模 문윤모	1919～? 全北 全州	1940 年入学 1943 年中退	西洋画科	
74	李順東 이순동	1911～ 江原道 鐵原	1940 年入学 1943 年卒業	日本画科/ 師範科	1941 年 4 月に師範科へ転科。 1930 年、第 9 回朝鮮美展に入選。
75	林炳日	1921～	1940 年入学	工芸図案科	6 ヶ月で中退。

	임병일	京城	1940 年中退		
76	林富興 임부흥	1920～ 全北 澤講郡	1940 年入学 1944 年中退	西洋画科	
77	朴斗洙 박두수	1921～? 京城	1940 年入学 1941 年中退	西洋画科	1 年で中退。
78	朴文淳 박문순	1922～? 大邱	1940 年入学 1942 年中退	西洋画科	2 年 5 ヶ月で中退。
79	朴商玉 박상옥	1919 ～ 1968 京城	1940 年入学 1942 年卒業	師範科	1930 年、京城第一高等公立普通学校（現・京畿高）に入学、美術教師であった東京美術学校出身の金周経の指導。 1935～1936 年、第 14・15 回朝鮮美展で入選。 1939～1941 年、二科展に出品。第 3・6 回の在東京美術協会展に参加。 1937 年、全州市範学校講習科修了。 1942 年、帝国美術学校卒業後、帰国し、大邱師範学校教師。 1954 年、第 3 回国展で大統領賞受賞。 1955～1968 年、国展招待作家、審査委員。 1961 年、ソウル教育大学教授。
80	朴玉來 박옥래	1920～? 忠南 論山郡	1940 年入学 1940 年中退	第二部 西洋画科	6 ヶ月で中退。
81	邊哲煥 변철환	1921～ 平壤	1940 年入学 1941 年中退	西洋画科/ 師範科	西洋画科 1 年修了後、師範科に転科。1941 年 12 月に中退。
82	吳宋煥 오송환	1921～ 黃海道 碧城郡	1940 年入学 中退	西洋画科	
83	俞海濬	1921～	1940 年入学	図案科	1941 年 12 月に中退。

	유해준	京城	1941 年中退		戦後、新聞記者およびドラマ作家として活動。
84	韋相學 위상학	1918～ 平南 平原郡	1940 年入学 1941 年中退	西洋画科	1 年で中退。 入学前に、太平洋美術学校で 2 年修了。
85	崔東新 최동신	1913 ～ 咸南 端川郡	1940 年入学 1943 年中退	第二部 彫刻科	
86	黃文虎 황문호	1920 ～ 京城	1940 年入学 1940 年中退	第二部 図案科	8 ヶ月で中退。
87	姜熙玉 강희옥	1922～? 京畿道 安城	1941 年入学 1942 年中退	西洋画科	1 年で中退。
88	金義卿 김의경	1921～? 忠南 論山郡	1941 年入学 1944 年中退	図案工芸科	金龜義卿
89	金華慶 김화경	1922 ～ 1979 忠南 牙山郡	1941 年入学 1943 年中退	日本画科	日本名：金山華慶 1941 年入学してから、1942 年に中退、1943 年に再入学してから、同年 11 月に中退。 1941～1943 年、第 20・21・22 回朝鮮美展で入選。 戦後、第 1～8 回の白牛会展に参加。 1964～1971 年、首都女子師範大学教授。 1965～1975 年、国展の推薦作家、招待作家、審査委員。
90	李世得 이세득	1921 ～ 2001 咸南 新興郡	1941 年入学 1943 年中退	西洋画科	日本名：大山世 1958～1962 年、パリに滞在。 1958～1970 年、国展の招待作家、審査委員。 1962～1969 年、ソウル大学校美術大学で講師。

					1961～1966 年、韓国美術協会の理事および監査。
91	李周行 이주행	1917 ～ 江原道 襄陽	1941 年入学 中退	別科 彫刻科	1937 年、文化学院入学。1941 年に帝国美術学校に入学。 戦後、画家としての行方は見られない。
92	鄭德洙 정덕수	1920～ 咸北 鏡城郡	1941 年入学 1943 年中退	西洋画科	日本名：鳥川武次。
93	鄭龍植 정용식	1922～ 全北 南原郡	1941 年入学 1941 年中退	西洋画科	8 ヶ月で中退。
94	朴永煥 박영환	1920～? 平南 鎭南浦	1941 年入学 1944 年中退	西洋画科	日本名：水原貫四郎
95	朴仁彩 박인채	1918～? 大邱	1941 年入学 1942 年中退	西洋画科	日本名：高山仁彩
96	白東燮 백동섭	1924～? 平壤 新義州	1941 年入学 1943 年中退	西洋画科/ 師範科	日本名：白川東燮 1943 年 1 月に師範科に転科、1943 年 11 月に中退。
97	白仁均 백인균	1923～? 京城	1941 年入学 1942 年中退	西洋画科	1 年で中退。
98	邊永園 변영원	1921 ～ 1988 京城	1941 年入学 1943 年中退	西洋画科/ 師範科	日本名：原辺源一 1942 年に師範科に転科。
99	孫英奇 손영기	1921～? 平南	1941 年入学 1942 年中退	西洋画科	日本名：西原正雄。1 年で中退。 1939 年、第 18 回朝鮮美展で入選。

		大同郡			朝鮮戦争の時に北朝鮮に行く。
10 0	尹興燮 윤흥섭	1920～ 京城	1941 年入学 1941 年中退	西洋画科	1938 年、川端画学校修学。
10 1	李景薰 이경훈	1921～ 全北 南原郡	1941 年入学 1943 年卒業	西洋画科/ 師範科	日本名:松川普茂 1939 年、第 18 回朝鮮美展に入選。 1941 年に入学後、2 年生以後から師範科に転科。 1951～1952 年、朝鮮戦争の時に従軍画家として活動。 1986 年、京畿道芸術文化賞受賞。
10 2	崔徳休 최덕휴	1922 ～ 1998 忠南 洪城郡	1941 年入学 1943 年中退	西洋画科	日本名:朝本徳休。2 年 6 ヶ月で中退。 フィルム中・高等学校、京畿女子中・高等学校の教師を経て、慶喜大学校教授。 1961～1981 年、国展に参加。 1980 年、文教部長官表彰。 大韓民国美術大展の審査委員。 1984 年、ソウル特別市文化賞受賞。 1987 年、国民勲章。
10 3	河鍾鎬 하중호		1941 年入学 中退	西洋画科	
10 4	韓弘澤 한홍택	1916～ 1994 京城	1941 年入学 卒業	西洋画科/ 研究科	1939 年、東京図案専門学校卒業。 1939～1944 年、朝鮮美展に入選。 1946 年、産業美術家協会を創立、1975 年まで同協会展に出品。代表理事。 1972 年、ソウル市文化委員 1975 年、徳性女子大学校教授。美術学部長。 1993 年、大韓民国文化芸術賞受賞。
10 5	洪川義也	平壤	1941 年入学 中退	西洋画科	

10 6	松川在華	黃海道 迫百	1941 年入学 中退	西洋画科	
10 7	和山二鳳	慶北 近日郡	1941 年入学 中退	西洋画科	
10 8	權玉淵 권옥연	1923～ 2011 咸南 三平面	1942 年入学 1943 年中退	西洋画科	<p>1 年で中退。</p> <p>1941 年、景福高等学校在学中に第 20 回朝鮮美展に入選。</p> <p>1944 年、第 23 回朝鮮美展に入選。</p> <p>1948 年、母校の景福高等学校で美術教師として在職。</p> <p>1953～1957 年、ソウル大学校美術学部の講師。</p> <p>1957 年、渡仏。1961～1981 年、国展の推薦作家、招待作家、審査委員を歴任。</p> <p>1962～1977 年、梨花女子大学校美術学部の講師。</p> <p>1988 年から芸術院の会員。2002 年、今年の作家展（於・国立現代美術館）</p>
10 9	金奭龍 김석룡	1922～? 平壤	1942 年入学 1944 年中退	西洋画科	<p>日本名：金谷奭龍，金谷良平</p> <p>1942 年、第 5 回在東京美術協会展に出品。</p> <p>戦後、北朝鮮文学芸術総同盟の美術制作員。</p> <p>1947 年、平壤美術大学の教員、1964 年、副教授。</p>
11 0	金昌福 김창복	1918～? 京畿道 仁川	1942 年入学 1943 年中退	西洋画科	<p>日本大学美術科本科 1 年修了してから帝国美の西洋画科 2 年生に編入。</p> <p>1 年で中退。</p>
11 1	金昌億 김창억	京城	1942 年入学 中退	別科 彫刻科	日本名：金山寛
11 2	金亨球 김형구	1922～ 2015 咸興	1942 年入学 1944 年中退	西洋画科	<p>日本名：金本亨球</p> <p>1940 年、川端画学校で修学。</p> <p>戦後、第 7 回を除き、第 1～8 回の白牛会展に参加。</p> <p>1961～1981 年、国展の推薦作家、招待作家、審査委員。</p>

					1968 年、武蔵野美術大学から入隊の確認後に、修了認定。 1976～1985 年、世宗大学校絵画科教授。 1977～1985 年、大韓美術協会の理事。
11 3	李漢應 이한응	1923 ～ 京城	1942 年入学 1943 年中退	西洋画科	日本名:香川清。1 年で中退。 1940 年、第 19 回朝鮮美展に入選。
11 4	張炳燐 장병린	1923～ 慶北迎日	1942 年入学 中退	西洋画科	日本名:張本昌秀
11 5	全舜鎔 전순용	1924～ 1992 咸南 咸州郡	1942 年入学 1944 年中退	第二部 西洋画科	日本名:松原光宣。2 年で中退。 1944 年、帰国し、咸興女子中学校などで美術教師。 1960 年、北朝鮮の朝鮮革命博物館の専属美術家として歴史主体画を制作。 1962～1976 年、油絵分科委員、朝鮮画分科委員。
11 6	趙命植 조명식	1922～ 忠南牙山	1942 年入学 1943 年中退	西洋画科	日本名:林川命植。1 年 6 ヶ月で中退。
11 7	曹昌煥 조창환	開城	1942 年入学 1943 年中退	西洋画科	日本名:夏山昌煥。1 年 6 ヶ月で中退。
11 8	朴演戌 박연술	1921～? 咸南 文川郡	1942 年入学 1944 年中退	西洋画科	日本名:新井耕二。約 2 年で中退。
11 9	沈來燮 심래섭	1923～ 京畿道 水原郡	1942 年入学 中退	西洋画科	日本名:松永來燮
12 0	尹龍洙 윤용수	1921～ 平安道 平原郡	1942 年入学 1943 年中退	師範科	日本名:平川龍次 1940 年、平壤師範学校卒業。 1943 年 12 月に中学。
12	崔元國	1920～	1942 年入学	西洋画科	日本名:古山元國。2 年で中退。

1	최원국	平北 龍川郡	1944 年中退		入学前に川端画学校で修学。
12 2	洪麟基 홍인기	1922～ 平南 平原郡	1942 年入学 1944 年中退	西洋画科	日本名:杉浦秀雄。2 年で中退。
12 3	洪鐘鳴 홍중명	1922 ～ 2004 平壤	1942 年入学 1943 年中退、 後日、修了認 定。	西洋画科	日本名：平井笠舟。 1943 年、12 月に入隊で中退し、後日に入隊中退の確認と卒業制作の提出で修了認定。 1961～1974 年、国際大学校教授および慶喜大学校講師。 1962～1969 年、国展に参加。1963、1966 年、国展の文教部長官賞受賞。 1969～1977 年、国展の推薦作家、招待作家、審査委員。 1982～1987 年、第 2・4・6 回の大韓民国美術大展の審査委員。
12 4	黃南洙 황남수	1925～ 會寧郡	1942 年入学 1943 年中退	西洋画科	日本名：平田殷造。1 年で中退。病気のため。
12 5	山本義一	大田	1942 年入学 中退	西洋画科	
12 6	具本英 구본영	1922 ～ 1993 開城	1943 年入学 1944 年中退	師範科	日本名:綾城本英。 一年半で中退。 戦後、南朝鮮美術家同盟のソウル支部で活動したが、北朝鮮に行く。平壤手芸研究所の美術講師。 1972 年、朝鮮画に転向。1982 年以後、平安北道美術創作社の創作家として活動。
12 7	金昌洛 김창락	1924 ～ 1989 慶北 星州郡	1943 年入学 1943 年中退	西洋画科	日本名:金本昌洛（7 ヶ月で中退） 1958 年、初個展（東京・村松画廊） 1961 年、第 10 回国展に特選、翌年に大統領賞受賞、国費留学。 1963～1964 年、フランス・ル・サロンで銀賞と金賞を受賞。 1961～1989 年、世宗大学校教授。
12 8	李忠根 이충근	1923～ 2008	1943 年入学 1943 年中退	西洋画科	日本名:白岩忠根 5 ヶ月で中退。

		黃海道 載寧			
12 9	임렬	1925～ 咸北 吉州郡	1943 年入学 1944 年中退	西洋画科	日本名：林田政夫。1 年で中退。 川端画学校で修学してから入学。 戦後、北朝鮮で朝鮮美術家同盟で活動。1982 年、マンスデ創作社西洋画団美術家。 功勲芸術家。
13 0	張鍾善 장중선	1923 ～ 1987 平南手壤	1943 年入学 1944 年中退	西洋画科	日本名：広田鐘善。1 年で中退。 戦後、舞台美術のほうで活動し、韓国国立劇場やテレビ放送局で舞台美術を担当する。
13 1	香林義明	咸北 城津郡	1943 年入学 中退	별과 彫刻科	
13 2	金山俊三	平北 定州郡	1943 年入学 中退	西洋画科	
13 3	金子永一 郎	平南 江西郡	1943 年入学 中退	彫刻科	
13 4	木都東根	黃海道 信川郡	1943 年入学 中退	西洋画科	
13 5	木戸降慶	黃海道 遂安郡	1943 年入学 中退	西洋画科	
13 6	白川載興	京畿道 開城	1943 年入学 中退	공예도안과	
13 7	竹林()華	平北 寧邊郡	1943 年入学 中退	西洋画科	
13 8	高山靖英	平南 平原郡	1943 年入学 中退	西洋画科	

13 9	豊川錫宰	濟州島	1943 年入学 中退	彫刻科	
14 0	丹山徹	開城	1943 年入学 中退	西洋画科	
14 1	東川尙平	京畿道 開城	1943 年入学 中退	西洋画科	
14 2	木下烈男	全北 高敬	1943 年入学 中退	西洋画科	
14 3	大山博彦	平北 新義州	1943 年入学 中退	西洋画科	
14 4	三中俊南		1943 年入学 中退	西洋画科	
14 5	菊原穂	京畿道 振威郡	1943 年入学 中退	제 2 부 도안과	
14 6	李福 이복	1927～ 慶北漆谷	1944 年入学 1944 年中退	師範科	日本名：星原福藏 6 ヶ月で中退。
14 7	金谷振勳	咸北 慶源郡	1944 年入学 中退	西洋画科	

<表 6> 太平洋美術学校 (1932～1944)

*2011 年 10 月、太平洋美術研究所の事務の方から「朝鮮人留学生卒業生名簿」を頂いた。

2012 年 11 月に同研究所を再訪問。戦争のときに建物が全焼したため、正確な学籍簿は残っていないが、戦後に事務の人の記憶によるメモからデータにしたものである。

	氏名	生没年、 出生地	入学・卒業年	活動情報	情報出典
1	李仁星	1912 ～ 1950、 大邱	1931 年入学 1935 年卒業	<p>貧しい家に生まれ、普通学校を卒業してから進学できず、地域画家であった徐東辰から水彩画の指導を受ける。</p> <p>1929 年、第 8 回朝鮮美展に初入選してから 1936 年まで入選・特選を重ねる。「天才画家」として脚光を浴びる。</p> <p>1931 年～1935 年、東京に渡り、太平洋美術学校で修学。</p> <p>1932 年の全日本水彩画会展を始め、1933～1934 年の光風会展、1933～1935 年の帝展、1938 年の文展に入選。</p> <p>1937～1944 年、朝鮮美展の推薦作家。</p> <p>1944 年からソウルの梨花女子高等学校の美術教師として在職し、戦後一時期に梨花女子大学の美術科で講義をする。</p> <p>1948 年、国画会絵画研究所を開設し、水彩画と油絵を指導。東和デパート画廊にて個展。</p> <p>1949 年、第 1 回大韓民国美術展覧会で推薦作家として西洋画部の審査委員。</p> <p>1950 年、朝鮮戦争中に他界。</p>	『李仁星』、サムスン美術館・リウム、2006 年。
2	具本雄 구본웅	1906 ～ 1953、 ソウル	1932 年卒業 (第 2 回)	<p>原籍：朝鮮京城府需昌洞 197</p> <p>在学中の現住所：下谷谷中三崎町 49 鈴木方</p> <p>号は、西山。2 歳の時に、脊椎障害を病み、不自由になる。</p> <p>ミッションスクールの倣新学校に入学し、校長であった Koons, E. W. から画家としての材質を認められる。</p> <p>1923 年、東京美術学校出身の李鍾禹と金復鎮が帰国後に教えていた「高麗美術院」で本格的な美術教育を受ける。(同時期に李馬銅も学んでいた)</p>	<p>太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」</p> <p>韓国民族文化大百科事典、 韓国学中央研究院</p>

				<p>1927 年、第 6 回朝鮮美展に彫刻《顔習作》が特選。</p> <p>1928 年、渡日し、川端画学校で 1 年間石膏デッサン。</p> <p>1929 年、日本大学専門部美学科に入学、暫く美術理論を修学。</p> <p>1930 年、太平洋美術学校に入学、1932 年 3 月に卒業。</p> <p>二科展と独立展などに出品。</p> <p>1933 年に朝鮮に帰国し、1934 年に牧日会を、1935 年には白蜚会を結成。牧日会は、李鍾禹(이중우)・李昞圭(이병규)・李馬銅(이마동)・孔鎮衡(공진형)・任用璉(임용련)・白南舜(백남순)・張勃(장발)・吉鎮燮(길진섭)・金瑑俊(김용준)など、日本留学者とアメリカ留学者で組織された洋画家団体である。</p> <p>戦後、一時期、米軍政庁の文教部で美術教科書を担当・編纂した。</p> <p>朝鮮戦争の時に、『ソウル新聞』の制作に参加。</p> <p>1954 年、李仁星・金重鉉と共に遺作展が開かれた。</p> <p>父が出版社「彰文社」を運営していたため、作家たちとも交友関係があった。詩人の李箱と親友として知られている。</p> <p>フォーブス的な表現、形の歪曲、激しいタッチを用い、内面の抵抗精神を表す。</p> <p>《裸婦》、《友人像》などが国立現代美術館に所蔵されている。</p>	
3	南寛 남관	1911～1990 慶北 青松	1935 年卒業	<p>14 才の時に、渡日する。</p> <p>1935 年に卒業してから、研究科 2 年を修了する。</p> <p>終戦まで、東京で活動し、文展・東光会展・国画会展などに出品。</p> <p>戦後、帰国して、ソウルで活動し、1949 年には第 1 回国展にて推薦作家になる。</p> <p>1952 年に日本で見た第 1 回日本国際美術展で刺激を受け、1954 年、渡仏する。</p> <p>1958 年からパリのサロン・ド・メに招待され、出品作の《東洋の風景》(1961) はパリ国立現代美術館に収蔵される。</p> <p>1960 年代半ばからは、東洋の文字や青銅の遺物をモチーフにした抽象絵画を残す。</p> <p>1968 年、帰国し、弘益大学校美術大学の教授を歴任。</p>	<p>『南寛』、ウイル(우일)出版社、1981 年。</p> <p>『韓国近代絵画選集(한국근대회화선집) 9-南寛・權玉淵』、金星出版社、1990 年。</p>

				1974 年、大韓民国文化芸術賞受賞。1981 年、文化勲章受章。	
4	安井承一		1937 年卒業 (第 7 回)	原籍：朝鮮黄海延自郡花城面讓重（황해 연자군 화성면） 在学中の現住所：葛飾区本田四ツ木町 59	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」
5	趙炳憲 조병덕	1916 ～ 2002、 京城	1938 年卒業 (第 8 回)	原籍：朝鮮市城府内需町 163 1939～1943 年、第 18、19、20、22 回の朝鮮美展で特選。 1949～1954 年、大韓民国美術展覧会の推薦作家 1951～1981 年、国展招待作家、審査委員に就く。 1981 年、大韓民国文化芸術賞受賞 1958～1981 年、梨花女子大学校美術大学の教授。 写実的な具象画を描いていたが、1950 年代から抽象化。	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」 「詩的感興の造形言語」『月刊美術』 1986 年 10 月号、30～33 頁。
6	崔載徳 최재덕	1916～?、 慶南 山淸	1938 年卒業 (第 8 回)	原籍：朝鮮慶尚南道郡丹城面南沙里（경상남도 군단성면 남사） 本名は崔載得。京城の普成高等普通学校を卒業し、渡日。 1936 年 4 月に帝国美術学校西洋画科に入学するが、2 ヶ月後に中退。 1936、1939、1940 年、朝鮮美展に入選。 1938 年に卒業後、日本で活動し、1941 年に李仲燮などと共に「新美術家協会」を結成する。 戦後、左翼系の「朝鮮美術同盟」の幹部として活動するが、転向し、第 1 回大韓民国美術展覧会に推薦作家として《山》を出品。 1950 年、朝鮮戦争の勃発直後に、北朝鮮の方へ行った。	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」。 キム・ソンウク（김성욱）『韓國近代繪畫選集-北に行った画家たち』金星出版社、1990 年。
7	朴得鎔 박득순	1910 ～ 1990、 咸鏡南道 文川	1934 年入学 1938 年卒業	号は、素城・素里。京城の培材高等普通学校に在学中に美術に集中した。 卒業後、故郷に滞在してから、1939 年に京城に上京し、京城府の都市計画科に勤務する。 1940 年、太平洋美術学校の同門団体である《PAS 同人展》に参加。 1941～1944 年、朝鮮美展で少女像をテーマにした作品が入選。1943 年に特選。 戦後、1947 年にソウルで初個展。 1949 年、第 1 回国展の西洋画部の推薦作家。以後、招待作家と審査委員を歴任。 朝鮮戦争の時には、陸軍従軍画家団の団長として活躍し、戦争関連のスケッチを制作。	韓国民族文化大百科事典、 韓国学中央研究院

				<p>1955～1961 年、ソウル大学校美術大学教授。1958 年、木友会の創立会員。</p> <p>1961～1965 年、首都女子師範大学の教授。1972～1976 年、領南大学校教授芸術学部長。</p> <p>1974 年、韓国新美術会の創立会員・会長。1978～1981 年、大韓民国芸術院会員。</p> <p>1982 年、大韓民国文化勲章。</p>	
8	金洙坤 김수곤	1913 ～ 1968、 慶北 清道	1935 年入学 1938 年卒業	<p>1931 年、京城の徽文高等普通学校に在学中に、東京美術学校出身の美術教師・張勃と洋画家・都相の勧誘で美術に入門。</p> <p>1934 年に大阪美術学校に入学した人物と同一人物に見られる。(大阪美術学校欄を参照)</p> <p>1935 年、太平洋美術学校に入学し、在東京朝鮮人美術留学生たちの団体「白牛会」(1933 年年結成)に参加。</p> <p>1938 年、卒業後に帰国。1945 年、朝鮮建国委員会主催の《開放記念展》に出品。</p> <p>1946 年、慶北美術研究会に参加。1947 年、故郷の清道の모계中学校の美術教師として赴任し、作品活動を並行する。</p> <p>1952 年、모계中学校の校長に在職してから、釜山・馬山などで教職生活を続ける。</p>	韓国民族文化大百科事典、 韓国学中央研究院
9	蔡斗錫 채두석	?～?	1939 年卒業 (第 9 回)	<p>原籍：朝鮮前北沙清郡聖山面高峰里 134 (전북사청군 성산면 고봉리)</p> <p>1939 年、第 2 回在東京美術協会展に《市場風景》を、同年の朝鮮美展に《街角》出品。</p> <p>1940 年 6 月、和信ギャラリーの PAS 同人の創立展に参加。PAS 同人は、京城で活動する太平洋美術学校卒業生のグループであり、会員には、崔載徳、趙炳憲、朴得鎔、宋文燮、孫應星、岡島正元などの 7 名がいた。</p> <p>1945 年、朝鮮文化建設中央協議会傘下の朝鮮美術建設本部の会員。</p>	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」。 韓国民族文化大百科事典、 韓国学中央研究院
10	宋文燮 송문섭		1940 年卒業 (第 10 回)	<p>原籍：朝鮮京城府漢芹旧 31 (경성부 미근구)</p> <p>在学中の現住所：谷中初音町 418 誠美荘内</p>	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」
11	吳東明 오동명		1940 年卒業 (第 10 回)	<p>原籍：朝鮮黃海道鳳山郡沙里院邑景岩里 317 (황해도 봉산군 사리원)</p> <p>在学中の現住所：牛込区山吹町 3-183 神長忠一方</p>	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」
12	孫應星 손응성	1916 ～ 1979、	1940 年卒業 (第 10 回)	<p>原籍：朝鮮京城府長沙町 1-32-7。在学中の現住所：下谷区谷中上三崎町 18 織畑方。</p> <p>幼い頃に家族と共に京城に上京し、成長する。</p>	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」。

		江原道 平康	資格：優等生	<p>1934 年、朝鮮美展に入選。培材中学校 2 年生の時に中退し、渡日した。</p> <p>1937 年、1939 年、在学中に朝鮮美展に入選。</p> <p>1940 年、朝鮮美展に《スキー服の女性》特選、その後も入選を重ねる。</p> <p>1944 年 9 月、京城の和信デパートにて初個展。</p> <p>在東京美術協会展に参加。朝鮮戦争の時に、釜山に非難し、1952 年には、李仲燮、朴古石、韓默、李鳳商などと共に《其潮展》を開く。</p> <p>1954 年から、国展に参加し、推薦作家、招待作家、審査委員を歴任。</p> <p>1955～1960 年、弘益大学校美術科の選任講師。</p> <p>1958 年、写実主義洋画家のグループ「木友会」の創立会員。</p> <p>1974 年、大韓民国芸術院賞の美術部門賞を受賞。</p>	韓国民族文化大百科事典、 韓国学中央研究院
13	金貞燮 김정섭		1940 年卒業 (第 10 回)	<p>原籍：朝鮮平安南道鎭南浦府新興里 75 (평안남도 진남포부 신흥리)</p> <p>資格：優等生</p>	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」
14	金聆教 김영교		1941 年卒業 (第 11 回)	<p>原籍：朝鮮大邱府南山町 677-3 (대구부 남산)</p>	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」
15	金本洋 八		1943 年卒業 (第 13 回)	<p>原籍：朝鮮京畿近利郡利川邑倉前里 163 (경기 근리군 이천읍 창전리)</p>	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」
16	柳田隆 太郎		1944 年卒業 (第 14 回)	<p>原籍：全羅北道全坦郡進風面古沙里 138 (전라북도 전탄군 진풍면 고사리)</p>	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」
17	金海俊 植		1944 年卒業 (第 14 回)	<p>原籍：朝鮮全南木津府日署町 1-3 (전남 기진부 일서)</p>	太平洋美術研究所提供の「朝鮮人留学生卒業生名簿」
18	李俊 이준	1919～ 、 慶南 南海	1939 年入学 1942 年卒業	<p>1928 年、南海公立普通学校に入学、1934 年に卒業した。</p> <p>1934 年、渡日して和歌山市商業学校に入学、1939 年に卒業し、太平洋美術学校に入学。</p> <p>1946～1949 年、馬山公立商業高等学校の 教諭。</p> <p>1953 年、第 2 回大韓民国美術展覧会で大統領賞受賞。</p> <p>1954～1984 年、梨花女子大学の美術大学の教授（定年退職）</p>	<p>韓国郷土文化電子大典</p> <p>釜山歴史文化大典</p> <p>http://busan.grandculture.net</p>

				1981 年、大韓民国芸術院の会員。1986～1989 年、「芸術の殿堂」の理事。 1994 年、国立現代美術館で回顧展	
19	金龍祚 김용조	1916 ～ 1944、 大邱	1940 年入学 (夜間部)	大邱の貧しい家で生まれ、普通学校を卒業してから独学で画家になる。 李仁星と共に地域の水彩画家・徐東辰に師事。 同様の状況であった李仁星の画壇進出に刺激を受け、水彩画と油絵に才能を現す。 1931 年、16 歳の時に大邱の洋画家団体である「郷土会」の作品展に参加。 1932 年から朝鮮美展に入選を重ねる。デパートなどで働いてから、1940 年に渡日し、太平洋美術学校の夜間部で修学。肖像画を描いて学費を稼ぐ。 1942 年、文展に《南鮮の農家》入選。1943 年、大邱に帰郷、結核を病む。 1944 年、朝鮮美展で特選になるが、29 歳で他界。自画像が湖岩美術館に所蔵されている。	韓国民族文化大百科事典、 韓国学中央研究院
20	조병현 趙炳賢	1921～ 忠北清原			
21	張石水 장석수	1921～ 1976 慶北迎日	1943 年卒業	1940 年、京都東山中学卒業。1942 年、第 23 回朝鮮美展に入選。 1946 年、女子中学校の教師 1963～69 年、嶺南大学絵画科教授	「張石水油絵展」『京郷新聞』1974 年 3 月 7 日
22	문동식	1919～ 1976 靈巖			
23	장두건	1920～ 2015			

その他の学校

<表 7> 日本大学 美術科(1921 年美学科設立、1929 年から美術科設立～現在)

	氏名	生没年、 出生地	入学・ 卒業年	専攻	活動情報	情報出典
1	金光 김광	?～?、 慶南 晋州	1924 年卒業	美学科	日本大学美学科に通いながら、油絵を学ぶ。 1924 年、卒業後、帰国し、同年 10 月 4 日から京城日報社で、数百点の作品で個展。	チェ・ヨル(최열)『韓国近代美術의 歴史 韓国美術史事典 1800-1945』ソウル：悦話堂、2006 年、180 頁。
2	具本雄 구본웅	1906 ～ 1953、 ソウル	1929 年入学 1930 年中退	専門部 美学科	1930 年中退し、太平洋美術学校に転校。 以後の情報は、「太平洋美術学校」欄を参照。	
3	金煥基 김환기	1913 ～ 1974、 全南 新安	1933 年入学 1936 年卒業 1937 年まで研 究科	美術科	号は、樹話。箕佐島の富農の 1 男 4 女の長男として生まれる。 1927 年、ソウルの中東中学に進学。1931 年、渡日し、東京の錦城中学に通い、翌年に卒業。 帰国してから、1933 年に日本大学に入る。在学中の 1934 年にアバンギャルド洋画研究所に通う。 東京美術学校の吉鎮燮と白蛮会の活動。自由美術家協会展に出品。 天城画廊で個展。1937 年、帰国 1946～1949 年、ソウル大学校美術学部教授。新写実派を結成し、モダニズム運動を展開した。1952 年、弘益大学校美術学部の教授。美術学部長と学長に就く。 1956 年、パリに渡り、3 年間滞在。 国展の審査委員、大韓美術協会会長、韓国美術協会理事長。 1965 年、サンパウロビエンナーレのコミッショナーとして出国してから、アメリカに定着し、ニューヨークで作品活動をした。	『韓国 の 美術家—金煥基 (한국의 미술가 김환기)』、ソウル：サムスン文化財団、1997 年。 韓国民族文化大百科事典、 韓国学中央研究院

4	朴古石 박고석	1917～ 2002 平壤	1935 年入学 1939 年卒業		<p>キリスト教の助事であり、独立運動家の朴鐘恩の息子（4 兄弟の末子）。</p> <p>1924～1930 年、平壤崇徳小学校を卒業。1930～1935 年、平壤崇実中学校卒業。</p> <p>1935 年、渡日し、1945 年まで滞在。途中に中国にしばらく滞在。</p> <p>1943 年、初個展を東京八咫画廊で開く。東京松竹映画株式会社に入社、漫画映画の制作部で勤務。戦中は、横浜の勤労部隊に動員。</p> <p>戦後直後に、音楽人の全鳳楚とソウルに渡る。</p> <p>1946 年、ソウルタイム社の文化部記者として働く。培花女子高校の教師になる。</p> <p>1951 年、朝鮮戦争の時に釜山に避難し、釜山工業高等学校の美術教師として働きながら、従軍作家展などに出品。「其潮展」に参加。</p> <p>1954 年、弘益大学校美術学部の専任講師、徐羅伐芸術大学に出講。</p> <p>1957 年 4 月、「モダンアート協会」を創立し、1961 年まで総 6 回参加。</p> <p>1960 年、国展の推薦作家。</p>	『朴古石 と 山（박고석과 산）』展図録、現代画廊、2017 年。
5	李國銓 이국전	1914～？	1941 年卒業	芸術科	<p>彫刻家。金復鎮（1920 年東美校彫刻科木彫部撰科入学・25 年卒業）の弟子。</p> <p>1939 年 4 月、第 3 回主線美術展覧会に裸婦全身像の「座像」が入選。朝鮮日報に作品図版と一緒に報道。1939 年、文展で入選。</p> <p>1941 年 11 月 26 日～30 日、丁子屋画廊で彫塑個展。</p> <p>1941 年の帰国後から社稷洞にあった金復鎮の美術研究所を引き継ぎ、「京城美術研究所」に改称して運営。1943 年に昌成洞に移転。</p>	『毎日新報』1941 年 11 月 26 日。 최열 『韓国近代美術의 歴史 韓国美術史事典 1800-1945』ソウル：悦話堂、2006 年、424、482、497 頁。

<表 8> 日本美術学校（1918～ 、現・日本美術専門学校、2018 年 3 月 31 日をもって廃校予定）

	氏名	生没年、 出生地	入学・卒業年	専攻	活動情報	情報出典
1	金麟圭 김인규	?～?、 京畿	1932 年卒業	図案科		「今春卒業할日本留学生」『東亜日報』1932 年 2 月 6 日。
2	勸奨 권장	?～?、 慶北安東	1934 年卒業	洋画科	卒業後、故郷の安東に帰り、作品活動に励む。 1935 年 8 月 26 日～30 日、安東公立普通学校で個展開催。	「勸氏個展（安東）」 『東亜日報』1935 年 8 月 25 日。
3	金鐘滿 （金子英雄 →真鍋英雄） 김종남	1914～ 1986、 慶南 山清郡	1934 年入学 1937 年卒業	洋画科	1929 年（14 才）、渡日。…① 1934 年、京都両洋中学卒業。上京し、早稲田、池袋モンパルナスに暮らす。…② 1937 年、日本美術学校卒業後、同年より福沢一郎絵画研究所に通う。同年の夏期講習会では猪飼重明と共に講習会委員を務める。…② 独立美術協会展に出品後、福沢研究所に通っていた縁で、美術文化協会に出品。…① 1940 年 4 月、第 1 回美術文化協会展に《風景》連作 3 点を出品、美術文化賞受賞。当時丸十商店デザイン部に勤務。美術文化協会会員。…② 1941 年、《水辺》、現在、板橋区立美術館所蔵。…② 第 4 回美術文化協会展に《葡萄》《憩鷺》出品…①、② 戦中は日本航空整備部隊に勤務。…③、④ 戦後は、横田基地に勤務し、英字新聞の編集の仕事に携わりながら、日本アンデパンダン展、行動美術協会に出品した。…④	①金英那「1930 年代東京留学生들—前衛그림展의活動을中心으로—」『近代韓国美術論叢』學古齋、1992 年。 ②『福沢一郎絵画研究所—進め！日本のシュルレアリスム』展カタログ、板橋区立美術館、2010 年、33-35、123 頁。 ③真鍋英雄「一つの想出」『美術文化』美術文化協会、1955 年 1 月。 ④遺族・真鍋弘の証言。筆者とのインタビュー：2015 年 3 月 18 日。
4	石熙滿 석희만	1914～ 2003、 咸鏡北道 茂山			延邊の朝鮮族美術界の第一世代、美術教育に大きな役割。 1930 年、中国竜井（용정、Longjing）東興中学校在学の時、東亜日報開催の全朝鮮第 2 回男女学生作品展に入選。 日本美術学校で 5 年間修学しながら＜独立美術家協会展＞で活動。	睦秀炫「境界에 선 아이덴티티—改革開放以前과 以後의中国朝鮮族美術」『韓国近現代美術史学』第 23 集、2012 年、179 頁。

					<p>1940 年に竜井に戻り、学校で教鞭をとり、雑誌の美術編集の仕事をする。</p> <p>1949 年、中華人民共和国創建後に延邊大学の美術教員になる。延邊の美術界制度の成立に主力。</p>	
5	郭仁植 곽인식	1919 ～ 1988、 大邱			<p>日本で定着した在日コリアン画家として目立つ制作活動をした。</p> <p>戦前には独立美術協会などに、その後には二科会展などに現代的な表現主義の作品を出品し、注目を浴びた。</p> <p>1950 年代にはシュルレアリスムとアンフォルメル美学の影響を受けた造形作業を目指しながら、1954 年読売アンデパンダン展に出品。</p> <p>1965 年、日本国際美術展（東京ビエンナーレ）に招待出品。</p> <p>1960 年代半ばからは、特に平面的な絵画作業から離れ、ガラス彫刻、木、鉄板、粘土などの物質を画面に付着させ、そのままの特異なる造形的構成や形象的発言をさせる作品を追求した。当時日本の「もの派」に大きな影響を与えた。</p> <p>1970 年代半ば以後には、伝統的な和紙に小さい楕円型に単純化させた一定の形の透明な色のイメージを、遊動的で複合的な構成に展開させる、東洋的な神秘の平面絵画を創出した。</p> <p>1968 年、東京国立近代美術館での「韓国現代絵画展」に出品する他、1969 年にはサンパウロビエンナーレに韓国人画家として参加した。</p> <p>1970 年、朝鮮日報社主催の現代作家招待展に出品。</p> <p>1977 年、東京セントラル美術館での韓国現代美術端面展に参加。</p> <p>1985 年、韓国の国立現代美術館で大規模の回顧展開催。</p>	<p>韓国學中央研究院、韓国民族文化大百科</p> <p>『곽인식 (郭仁植)』展図録、韓国国立現代美術館、1985 年。</p>
6	金 ジ ヨ ンス 김정수	1917 ～ 1997 慶南 昌原	1938 年入学	彫刻科		<p>リ・ジェヒョン (리재현) 『朝鮮歴代美術家編覧』平壤：文学芸術総合出版社、1999 年、367～369 頁。</p>

7	裴貞禮 배정례	1916～?	1930 年代後半 に入学、中退	日 本 画 科	1930 年代後半に入学してから中退し、ソウルで韓国画家・金殷鎬に師事し、画壇に進出した。	李龜烈「韓国近代美術史의 女性先驅者들」『月刊美術』2003 年 4 月号、119 頁。
---	------------	--------	---------------------	------------	-----------------------------------------------	----------------------------------------------------

<表 9> 緑陰社画学校

	氏名	生没年、 出生地	入学・卒業年	専攻	活動情報	情報出典
1	柳景塚 류경채	1920 ～ 1995、 黄海道 海州	1941 年卒業	絵画科	全州師範学校卒業後、東京留学。 留学中の 1940 年、第 19 回朝鮮美展に《船》で初入選、画壇デビュー。 戦後、ソウル師範学校、ソウル大学校美術学部で教鞭をとる。 1957 年、創作美協を創立し、他界するまで活動。芸術院の会長を歴任。 1960 年以後、非具象へと転向。	イ・キュイル (이규일) 『話する 絵画 (이야기하는그림)』時空社、1 999 年、157 頁。 『京郷新聞』1995 年 12 月 29 日。
2	高和欽 고화흠	? ～?、 全州			1938 年 (15 才)、朝鮮美展入選。全州師範出身。 国展の招待作家、審査委員歴任。創作美協、水彩新作派展の創立メンバー。 圓光大学校美術大学学長 (1987 年現時点)。国民勲章受賞。 1950 年代までは具象画を、60 年代から抽象を試みた。 《白岸》シリーズで独自の非具象画風を定着。 1987 年 10 月 27 日～11 月 1 日、ソウル新世界美術館で個展。	「高和欽新作発表展 27 日 新世界美術館」『京郷新聞』 1987 年 10 月 26 日。

<表 10> 京都市立絵画専門学校（1909～現在、現・京都市立芸術大学）

	氏名	生没年、 出生地	入学・卒業年	専攻	活動情報	情報出典
1	朴生光 박생광	1904 ～ 1985、 慶南 晋州	1923 年入学… ② （1930 年代初 めに聴講生？ …①）		<p>号は乃古。裕福な農家で次男として生まれる。…①</p> <p>晋州普通学校を卒業し、晋州農業学校に在学している途中、1920 年に京都に渡る。</p> <p>1920～1922 年、立川酸雲美術学院で 3 年間修学。…②</p> <p>1923 年、京都市立絵画専門学校に入学。竹内栖鳳と村上華岳に師事。古典と近代技法の折衷を試みる新日本画を学ぶ。</p> <p>1930～1931 年、第 9・10 回の朝鮮美展に入選。…①</p> <p>1930 年代半ば、上京し、落合朗風に師事「明朗美術展(1934～1943)」や「新美術人協会(1938～1947)」など、日本画の前衛団体で活動する。…①</p> <p>1938 年、第 2 回自由美術家協会で《盗月》が入選。</p> <p>戦後、故郷の晋州で作品活動をし、「白陽会」の創立展に参加。抽象画に傾倒。</p> <p>1963 年、慶尚南道文化賞受賞。</p> <p>1967 年、ソウルに上京し、弘益大学校と慶熙大学校で講義。</p> <p>1974 年、再び渡日し、東京に居住。日本美術院展の会員になり、3 回の個展を開催。</p> <p>1977 年、帰国し、ジン画廊で個展を開き、名声を得る。</p> <p>1981 年、百想記念館での個展以後、民話・土俗・巫俗という韓国的なテーマを追求。</p> <p>1982 年、インドのニューデリーインド美術協会に招待され個展。</p> <p>1985 年、パリのグランパレール・サロン展に特別招待。</p> <p>1985 年、大韓民国銀冠文化勲章受賞。1986 年、湖岩美術館にて回顧展開催。</p>	<p>①チェ・ジンソン（최진선）「朴生光の韓国画研究（박생광의 한국화연구）」『韓国近現代美術史学』第 8 号、2000 年。</p> <p>②『朴生光画集』등불、1986 年。</p> <p>③『月刊美術』2004 年 9 月号、153 頁</p>
2	姜湖 강호	1908 ～ 1984、 慶南 昌原	1921 年以後		<p>初期プロレタリア文学芸術運動に参加。北朝鮮の舞台美術、映画美術の先覚者。教育活動、挿絵制作、図書執筆。…①</p> <p>貧しい小作農の長男として生まれ、13 オの時に一人で渡日、新聞配達などしながら苦学で京都絵画専門学校を卒業。帰国後、ソウルの映画芸術協会の研究生となり、演出授業を受ける。</p>	<p>①リ・ジェヒョン（리재현）『朝鮮歴代美術家編覧』平壤：文学芸術総合出版社、1999 年、260～263 頁。</p> <p>②喜多恵美子「日韓プロレタリア美術</p>

					<p>…①</p> <p>1927 年、プロレタリア文学芸術同盟に加盟、金復鎮の後を継いで美術部をリード、映画部にも関与。水原で展覧会を組織。…①</p> <p>1928 年以後、童話劇の舞台美術や映画の演出。1931 年、映画「地下村」、労働階級の闘争をテーマにした朝鮮初の映画を制作するが、日本の検閲で上映中止になる。…①</p> <p>1932 年、非合法の月刊雑誌『우리동무』の編集活動で 3 年間投獄。…①</p> <p>1930 年代、日本のプロレタリア芸術運動に参加。…②</p> <p>1938 年、プロ芸盟の美術部演劇部活動で金・イルヨン（김일영）と一緒に投獄され、1942 年に出獄。舞台美術家として活躍。…③</p> <p>1944 年、劇団「藝苑座」の舞台装置部で活動。…③</p> <p>1945 年 1 月、劇団「清明」、「高協」、「黄金座」公演の舞台装置を担当。…③</p> <p>終戦後、ソウルで南朝鮮演劇同盟の書記長…①</p> <p>1946 年 7 月、박헌영도당의文化路線に反対し、北朝鮮へ。共産党中央委員会・宣伝扇動部の指導員として、朝鮮戦争前まで北朝鮮演劇同盟書記長、歌劇団団長、国立芸術劇場総長など歴任し、国家の公演文化事業に就く。…①</p> <p>朝鮮戦争期～戦後社会主義建設時期、朝鮮画報社社長、平壤演劇映画大学や平壤美術大学で舞台美術学部長、講座長。朝鮮戦争の軍事映画の映画美術担当。…①</p> <p>演劇「1211 高地」（1958）、「朝鮮の母」（1959）、「共産主義者」（1959）など。…①</p> <p>退官後、舞台美術の参考書『해방전 우리나라 살림집과 생활양식(解放前の我が国の家と生活様式)』（1980）などを出版。…①</p>	<p>運動の交流について」『美術史論壇』第 12 号、2001 年。</p> <p>③チェ・ヨル（최열）『韓国近代美術の歴史 韓国美術史事典 1800-1945』ソウル：悦話堂、2006 年、342, 531 頁。</p>
3	ジャン・マンヒ 장만희	1917 ～ 1993、 慶南 居昌	1936 年入学 1938 年卒業	染織科	<p>絵画を専攻にしたかったが、朝鮮人としてはその学科に入れず、染織科を選択、絵画や図案全般の基礎知識を習得。</p> <p>1938 年、東亜協会（동아지회）図案科に就職。</p> <p>1940 年、米山スタジオ（産業美術創作会社）に入る。</p> <p>1942 年、印刷工場の図案家として、日立、東芝などのカタログや広告宣伝画を制作。</p>	<p>リ・ジェヒョン（리재현）『朝鮮歴代美術家編覧』平壤：文学芸術総合出版社、1999 年、365－367 頁。</p>

					<p>1955 年、ジェネラルアートスタジオ（産業美術創作企業）創立、ソニー電気会社の半導体ラジオや技術書籍の彩色挿絵、新聞広告図案制作。</p> <p>1960 年、北朝鮮に帰国、軽工業美術創作社の美術家として 20 年間創作活動。</p> <p>産業美術がまだ発達していなかった北朝鮮で、理論と経験を持っている彼は各種の出版物や展覧会への出品を通じて、産業美術の発達を図った。機械大量生産に相応しい、美と実用性が両立する産業美術の重要性を説破。</p>	
4	鄭末朝 정말조	1908 ～ 1977、 慶南 陝川	1939 年研究科 卒業		<p>早く父親を亡くし、8 歳の時に、家族と共に京都に移住。</p> <p>兄の支援で美術学校に進学。京都市立美術工芸学校で 3 年間、京都市立絵画専門学校の本科研究科で 8 年間在学。</p> <p>1937 年から西山翠嶂の画塾「青甲社」の唯一の朝鮮人メンバー。</p> <p>1938 年、朝鮮人女性と結婚し、3 男 1 女を得る。以後日本と朝鮮を行き来しながら官展に積極的に参加。</p> <p>1938～1943 年、新文展で 6 年連続で入選。</p> <p>1939 年、朝鮮美展東洋画部で初入選し、1940 年から 3 年連続で朝鮮総督賞受賞。</p> <p>1943 年、朝鮮美展の特選作家、1944 年には無鑑査推薦作家になる。</p> <p>戦後、津山に移住し、京都に行き来しながら青甲社に通う。</p> <p>前後、総連で暫く活動するが、1952 年からは「在日本大韓民国居留民団」で活動。</p> <p>1955 年、日展にて《占い》が入選。</p>	<p>イ・ユンヒ (이윤희) 「在日韓国人画家 鄭末朝」</p> <p>『近代書誌』第 8 号、近代書誌学会、2014 年 1 月。</p>